

I 仮説 I に関する活動内容

○チームビルディング

【目的】

チームビルディングとは「仲間が思いを一つにして、一つのゴールに向かって進んでゆける組織づくりであり、仲間が主体的に自分らしさや多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら一丸となって共通のゴールを達成しようとチャレンジする、そうした組織をつくるための取組全般」と一般的には定義されている。本校では、「構成的グループエンカウンター」、「アイスブレイク」といったものも含め、生徒がお互いに本音を出し合い、お互いに認め合うことや和やかな雰囲気を作り、その場に安心していられる環境づくり全般を「チームビルディング」として実施する。

【内容】

1 CAP 研修

CAPとはChild Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の頭文字をとったもので、子どもたちがいじめや痴漢、誘拐、虐待、性暴力といった様々な暴力から自分を守るための人権教育プログラム。CAPの基本となる考えは、①子どもの権利として「安心・安全・自由」の人権概念、②子どもの問題解決への信頼と働きかけ、③コミュニティとして家庭・学校・地域をつなぐ、の3つである。生徒たちが学校生活で安心して生活ができるとともに、生徒の心の弾力性(レジリエンス)を育む目的で実施した。

○CAP 教職員ワークショップ 5月20日(木)

○CAP 生徒ワークショップ 5月25日(火)、26日(水)

2 授業での取り組み

1～3年生の各授業や、HRの時間に短時間のチームビルディングやアイスブレイクを実施し、お互いが安心できる場づくりを行った。

(1) 1年 国際観光科

<新聞タワー>

新聞タワーとは、チームで新聞紙6枚を使ってより高いタワーをつくる。テープやのり、はさみなど道具は一切使わずにタワーを制作する。チーム内でのコミュニケーションやリーダーシップのトレーニングと言われている。

(2) 3年 普通科

<ブラインドスクエア>

ブラインドスクエアとは、目隠し状態になったメンバー全員でロープを手に持ち、正方形をつくるゲーム。チーム内での問題解決、コミュニケーションのトレーニングと言われている。

(3) 3年 国際観光科

<コンセンサスゲーム>

コンセンサスゲームとはある課題について、チーム全員の合意(納得)によって意思決定をするゲーム。課題に正解がある場合は、個人決定とコンセンサスによる集団決定の正確さを比較することで集団活動の有効性に気づくことを狙いとし、正解がない場合は、互いのものの考え方や価値観の違いを知ることを狙いとしている。



○ 教科学習

1 地域の自然環境の活用した取り組み

(1) 理科 環境Ⅰ・Ⅱ における巡検（地域巡検／自然の理解）

【対象生徒】

普通科2年3年、国際観光科2年選択

【科目目標】

地域の自然を題材として、観察、調査、実験などを行い、それらを通して、生物とそれを取り巻く環境について理解するとともに、環境調査、測定に対する基礎的、基本的な理論と実践力を養う。とりわけ白馬・小谷を中心とした地域の自然環境の特質を認識させる。

【内容】

- ・白馬の自然環境
白馬の気候と植生，白馬の山並みと雪形
- ・植物調査の理論と実践
植物の観察（花や葉の構造）植物種の同定
- ・環境課題の研究
環境についての論文作成，調べ学習と発表
- ・生物調査の基礎実習（動植物，昆虫等）
水生昆虫による水質調査の基礎，樹木測定の基礎、紅葉のしくみ，
植物の種子散布様式，土壌生物の調査
- ・大気調査の理論と実践
大気調査の基礎と実習，地球温暖化
- ・日常生活と環境問題
新聞記事等から課題を探り，レポート発表
- ・冬の環境問題
植物の冬芽，動物の冬越し，降雪と環境，冬のブナ林実習
- ・里山の環境
里山の自然と生活，環境の開発とその変容
- ・自然環境とその保全①
春の山野草と山菜，湿原の自然植生・湿地の生態系（動物・植物）
- ・自然環境とその保全②
環境課題の研究と論文作成，柵池・八方の自然・森林の生態系，
水質と水生昆虫，土壌と分解者（キノコ・粘菌、土壌生物）
- ・災害と環境の保全
白馬の地形と地質構造，岩石標本作成、活断層と地震災害
- ・日常生活と環境問題
身の回りの放射線，エネルギーと資源，（ダム巡検）
気象学の基礎，天気図と気象予報

【実施の様子】

*小谷の棚田 ⇒ 山間地に位置する棚田での実習と観察。機械を使わない昔ながらの方法で、田起こしから稲刈りまでをおこなった。



*栂池自然園 7月19日(月) ⇒ 山地帯～亜高山帯の植生変化の観察



*沼池尻・内山 6月17日(水) ⇒ モリアオガエルの生態を観察



*フォッサマグナ 10月4日(月)

⇒ ジオパーク 地質の成り立ち観察糸魚川静岡構造線の西縁。断層露頭を観察
枕状溶岩の観察(海底火山の噴火溶岩の堆積により生成)
明星山(地下で固まったマグマが隆起露出した。花崗岩一枚岩でクライミングができる)、ラベンダービーチ(ヒスイ拾い)



＊黒部ダム見学 11月1日（月）

⇒ 巨大ダムが周辺環境に与える影響，下流河川の生態系に与える影響を学ぶ



（2）アウトドアスポーツ

【対象生徒】

国際観光科3年選択

【科目目標】

地元の自然環境を活かしたスポーツ活動を通し，公正，協力，責任，参画などに対する意欲を高めるとともに，技術，価値，態度を学ばせ自然保護，環境保護の意識を高める。

【内容】

トレッキング（トレイルラン），ボルダリング，フィッシング
スポーツクライミング，ラフティング，スタンドアップパドルサーフィン，カヌー
野外調理，スノーシューでの雪上ハイク，雪洞作り，野外調理

【実施の様子】 国際観光科3年

トレッキング

「白馬国際トレイルラン」の大会コースの一部を歩き、トレッキング（トレイルラン）を体験する。



スタンドアップパドルサーフィン

サーフィンのロングボードのような大きめのボードに乗り、立った状態でパドルで漕いで水面を進んでいく新しいウォーターアクティビティ。

手軽に水の上を移動でき、現在では人気の水上アクティビティを青木湖で体験。



(3) 山岳基礎

【対象生徒】

国際観光科2年選択

【科目目標】

読図，植生，気象，登山常識，セルフレスキュー等，北アルプスを中心とした登山ルート，標高，山の歴史，文化等の知識を習得する。

山岳ガイド（信州山案内人）資格取得を視野に入れ，その基礎となる知識と理論を習得する。

【内容】

4月 北アルプスの歴史（白馬周辺の登山史）と文学①，救急処置①（基礎編）

5月 登山技術基礎（ハイキングと登山の違い，歩行技術，標高と難易度）

6月 登山技術基礎（登山用具と服装，読図コース，判断）

7月 山岳地形と読図

8月 山岳地形と読図

9月 山岳気象，遭難対策

10月 クライミング基礎

11月 クライミング基礎（トップロープ，リードロープ操作）

12月 雪山登山（理論のみ、実習は山岳実習で）

1月 北アルプスの歴史（白馬周辺の登山史）と文学②，救急処置②

2月 山での怪我，病気

3月 セルフレスキュー

2 国際交流・異文化理解に関する取り組み

(1) 英語 総合英語・コミュニケーション英語

【対象生徒】

普通科，国際観光科 2年

【科目目標】

幅広い話題について聞いたことや読んだことを理解し，情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばす。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

体系的に文法事項を修得し，英語で表現する能力を育成する。

【内容】

- ・辞書を使って英語を読み，情報や書き手の意向を理解し，概要や要点をとらえる。
- ・基礎的な文型や文法事項を理解し実際に活用する。
- ・ALT との活動，ペアワークなどを通し，コミュニケーションを行う積極的な姿勢を養う。
- ・自分の意見を英語で表現する。

【実施の様子】

- ・ベトナムホーチミン市台湾学校とのオンライン交流

第1回 6月 4日（金）

第2回 6月 11日（金）

⇒ ベトナムと日本の食文化について英語でプレゼンテーションと対話を行った。

- ・アメリカ・カナダの高校生とのオンライン交流

7月 6日（火）1，2時限 普通科2年生

⇒ 日本のアニメや映画に関するクイズを英語で出題，日本の文化について対話を行った。



(2) Asian Language (韓国語)

【対象生徒】

国際観光科3年選択

【科目目標】

実践的な日常会話を学ぶ。

- ・言葉を学ぶ中で、韓国の歴史や文化を学び、韓国に対する理解を深める。

【内容】

- ・ハングル文字の読み方・発音・書き方
簡単な挨拶、自己紹介
- ・ハングル文字の読み方・発音・書き方
読解、韓国語会話
- ・韓国語でのコミュニケーション実習 (スキー場やホテルなど)

【実施の様子】

韓国料理の調理実習



太極拳体験



(3) ブリティッシュヒルズ語学研修

【対象生徒】 全校で希望生徒20名

【実施目標】

英語のみを使用するという限られた非日常経験の中で、コミュニケーションに必要な資質や態度を学ぶ。

中世英国様式の施設でイギリスの文化に触れながら、日本の文化との違いを感じる。

【内容】

日程 1月19日(水)～21日(金)

目的地 ブリティッシュヒルズ(福島県岩瀬郡天栄村)

研修内容

今まで勉強してきた英語を使いながら、異文化や風習、おもてなし、ボランティア、スピーチやディベートといった様々なテーマで学ぶ。

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和4年6月に延期

3 観光に関する取り組み

(1) 観光コミュニケーション英語

【対象生徒】 国際観光科2年

【科目目標】

観光に特化した英語表現やホスピタリティについて実践的に学習する。

近隣の観光地を訪れ、外国人観光客を案内する方法を学習し、英語で観光ガイドなどを行う。

この地域を訪れる外国人観光客に対してインタビューを実践する。

【内容】

- ・各種教材を用いて観光に特化した英語表現やホスピタリティについて実践的に学習する。
- ・外部講師やALTを活用し、学習した英語を実践的に応用する。
- ・近隣の観光地（地獄谷野猿公苑、松本城など）を訪れ、実際にガイドをされている方から外国人観光客を案内する方法を学習する。
- ・白馬地域の魅力を表現できるよう、英語で観光ガイドを行う。
- ・白馬地域を訪れる外国人観光客に対してインタビューを実践する。
- ・観光案内後にアンケートを取り、反省点や課題点を考えさせる。

【実施の様子】

①「スノーモンキーツアーEnglish Tour guide バスツアー」

日時 4月23日（金）

内容 白馬発のオプションツアーとして人気が高い、地獄谷野猿公苑、通称「スノーモンキー」と小布施、善光寺を実際に巡り、外国人向けツアーを体験する。

講師 しろうま荘 丸山俊郎 氏

スキージャパンホリデーズ ガイド1名

ツアー行程

学校 ⇒ 地獄谷野猿公苑 ⇒ 小布施 ⇒ 善光寺 ⇒ 学校



②「松本 English Tour guide バスツアー」

日時 11月1日(月)

内容 松本・安曇野の名所を巡りながら、外国人(白馬村在住)に向けて英語でガイドを行い、松本・安曇野の魅力を紹介するとともにおもてなしの心を学ぶ機会。

ツアー行程

学校 ⇒ 松本城 ⇒ 縄手通り ⇒ 大王わさび農場 ⇒ 学校



(2) 商業・地歴・総合探究 「高校生ホテル実習」

【対象生徒】 国際観光科2年 3年

【実施目標】

「地域の基幹産業である『観光』の魅力再発見と観光人材育成」を目的に、お客様を迎える立場で、白馬の魅力のとらえ方や、サービスを行う上での心配り、おもてなしの心を実践的に学ぶ。

【内容】

①3年生

開催日 令和3年9月6日(月)～7日(火)

場所 白馬東急ホテル

実施生徒 国際観光科3年生 観光コース 19名

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、事前学習の一部のみを実施。

【実施の様子】

白馬東急ホテル総支配人の講話



施設見学とホテルの業務について



② 2年生

開催日 令和3年11月25日(木)～26日(金)

場所 白馬八方温泉 しろうま荘, 丸金旅館

実施生徒 国際観光科2年生 27名

※新型コロナウイルス感染症対策の一環として、実習生とお客様の密集を避けるために2か所で分散開催とした。

事前学習 10月26日 オリエンテーション

28日 しろうま荘, 丸金旅館支配人講話

「宿の仕事の魅力について」

11月16日 現地にて施設見学・仕事説明

11月19日 現地にてサービス・接客練習1

11月22日 現地にてサービス・接客練習2

11月24日 現地にてサービス・接客練習3

本番 11月25日, 26日

宿泊者数 しろうま荘 12組25人 丸金旅館 11組20人

【実施の様子】

丸金旅館, しろうま荘支配人の講話



フロントチェックイン業務



2年国際観光科
高校生ホテル
白馬高校 × しろうま荘・丸金旅館

日時 11月25日(木)・26日(金)
15:00チェックイン/チェックアウト10:00

場所 白馬八方温泉 しろうま荘
長野県北安曇郡白馬町北城入方5004
白馬八方温泉 丸金旅館
長野県北安曇郡白馬町北城入方5039

お部屋 1室 2～4名
(HAKUBA)

料金 8,980円(1名様料金)
サービス料込・消費税込み 夕食・朝食付き
※別途入湯税150円

内容 白馬高生がおもてなしをします!!

ご予約 Cooolleフォームにてお名前、人数、連絡先、
希望宿泊施設をご入力ください。

<https://forms.gle/vevdkVWd8Spcl2Kt0>

お問い合わせ 白馬高校 0261-72-2034
※担当者不在の場合は折り返しご連絡いたします



白馬丸金旅館
しろうま荘
信州白馬八方温泉
しろうま荘

【生徒プレゼン資料】



高校生ホテルとは？

- 高校生がサービス実習を行い、ホテル業をはじめとする観光業の魅力を見つける2日間
- プロの方から、お客様を迎える立場について学ぶ
 - ☞ 白馬村の魅力の伝え方や、サービスを行う上での心配り
 - ☞ や“おもてなし”について



Q 1 実習を終えて得たことは？

学んだこと

- ・「報告」「連絡」「相談」「協力」の大事さ

得たこと

- ・貴重な体験ができた
- ・思いやりや気配りの大切さ

感じたこと

- ・一人の仕事が多い
- ・一人でやるとしたらすごく大変
- ☞ 部屋案内時の説明など



Q 2 宿泊業の大変さはどんなところか？

- ・お客さんへの気遣い
- ・限られた時間での布団引き
- ・接客
- ・お客さんの気持ちになって考えること
- ・わからないことへの対応



Q 3 宿泊業のやりがい、魅力は？



- ・「また来ます」「楽しかったです」等の**プラスな感想**を言ってもらえるところ
- ・相手の**気持ち**になってお客さんを受け入れるところ
- ・自分が準備したことでお客さんが**楽しんでくれたこと**
- ・初めて会った人と**コミュニケーション**が取れること
- ・協力した時の**達成感**

Q 4 高校生ホテルで行ったことは？

- チェックイン
- チェックアウト
- お部屋案内
- 荷物運び
- 布団敷き
- 次回準備



フロント作業を体験してみたの感想

- ・地域の方々に協力してもらって**おもてなし**ができた。
- ・しっかりと**役割分担**をすることでスムーズに部屋までの案内をすることができた。
- ・今回は2～3人でフロントをしたけど普段は一人ですべてやっていると**本当にすごい**と思った。
- ・お客さんに知らない質問をされたときに、**戸惑ってしまい、すぐに答えることができなかった。**



(3) グローバル観光

【対象生徒】 国際観光科3年選択

【科目目標】

観光に対する興味・関心をさらに高める。

白馬と他の観光地を比較し観光地の特徴，魅力，観光政策について学ぶ。

【内容】

・観光政策と観光行政

・観光地の比較

・白馬の地域資源と観光資源

白馬と野沢温泉の観光政策の比較

観光客の推移，光客の変化の傾向

インバウンド，インバウンドの誘致活動と日本人観光客との違い、特徴

観光とまちづくり，オーバーツーリズム（観光公害），観光者と生活者のすれ違い

住んでよし，訪れてよし実現に向けて

・富裕層向けの観光政策

グランピング，別荘（サロン）文化について

【実施の様子】

①白馬の地域資源探し

白馬村内で景色，景観が良い場所に行きどんな魅力があるか調べ，観光資源化するにはどうしたらよいか考える。



② 観光地の比較

観光政策についての講義

6月3日（木）

講義 白馬の観光政策について

講師 白馬村観光局事務局長 福島洋次郎 さん

6月7日（月）

講義（オンライン） 野沢温泉の観光政策

講師 野沢温泉観光協会 専務理事 森博美 さん

6月11日(金)

観光地見学 野沢温泉



③富裕層向け観光について

10月21日 グランピング Snow Peak FIELD SUITE KITAONE KOGEN 見学



10月25日(月)

講義(オンライン) 別荘文化と軽井沢について

講師 軽井沢観光協会 竜野茂康 さん

10月29日(金)

観光地見学 軽井沢



4 地域の人、企業、団体との取り組み

(1) 国語表現

【対象生徒】 普通科，国際観光科3年

【科目目標】

- ・国語を使って，自己の心情、考えを適切に，かつ進んで表現する力を育成する。
言語感覚を磨き，思考力を伸ばす。

【内容】

- ・原稿用紙の使い方。
句読点，表記符号の使い方，文の乱れ、文体の統一，段落、構成を考える。
- ・論理的な文章を書く
- ・卒業論文作成

【実施の様子】

「地域の方と協働した調べ学習 白馬・小谷の観光ガイドブック作成」

生徒が選んだ白馬村・小谷村の名所，旧跡，観光地観光施設について地域協力アドバイザーにコメントいただきながら観光ガイドブックを作成する。

調査内容	地域協力アドバイザー
白馬のパワースポット， 白馬小谷の秘湯， 白馬三山，八方うさぎ平テラス， 塩の道，白馬・小谷のアクティビティ， 美麻など	青木美由紀さん（白馬村観光局） ベイコン綾子さん（ブリュワリーパブオーナー） 武藤慶太さん（山のホテルオーナー） 太田悟さん（白馬観光開発） 篠崎久美子さん（村内在住） 太田文敏さん（村内在住）ほか
(A班) 10月18日(月)，19日(火)，25日(月)，26日(火)，11月1日(月)，2日(火)	
(B班) 10月19日(火)，20日(水)，26日(火)，11月2日(火)，5日(金)，9日(火)	

HAKUBA VALLEY GUIDE



Let It Be ～きれいな月をそえて～

太田陽南、西村萌花、田中心乃祐

白馬岳の景色

・季節によって山の色が違う（緑、紅葉、雪）

・白馬岳は春になると雪が溶け山肌に黒い「代掻き馬」の雪形が浮かび上がる。

<https://www.jtb.co.jp/kando/detail/306.asp> JTBより～ 最終閲覧日2021/11/2

・八方池から白馬三山を見ると池に白馬三山が映り、息を呑むほどの絶景が楽しめる

「信州山岳百科1」昭和58年3月1日発行編集者信濃毎日新聞社

～白馬岳～



信州側の方は五十度の急崖で有名な大雪溪が北股入に発達しており、銅鉱脈が分布しところどころに焼けがみられる。白馬岳は高山植物の宝庫。大雪溪の周辺の水で湿潤な砂地にはキヌガサノウ、サンカヨウ、シラネアオイ、クルマユリ、ミヤマシシウド、シナノキンバイ、クロユリ、ミヤマメシダなどの高茎草原が連なる。

山頂付近には、雪が遅くまで残る凹地にチングルマ、クモマグサ、ヒメウメバチソウ、アオノツガズラザクラなどの雪田植物、砂礫の移動するような地にはコマクサなどが見られる。

https://www.pixpot.net/articles/u_d_view/300/hakubamura-snow pixpot より 最終閲覧日2021/11/2

白馬岳の初・中級おすすめルート

・大雪溪ルート 往復13.2km

猿倉（約70分） 白馬尻小屋（約300分） 白馬大雪溪） 村営頂上宿舎（約20分） 白馬山荘（約15分） 白馬岳

大雪溪、小雪溪を越えると、お花畑が広がる。

夏でも雪溪が残るためピッケル、アイゼンは必要。

・柵池・白馬大池ルート 往復17.7km

柵池自然園ロープウェイ駅（約70分） 天狗原（約110分） 白馬大池山荘（約110分）

小蓮華山（約30分） 三国境（約60分） 白馬岳

距離が長いので登山計画をしっかりと。

小蓮華山から白馬岳の間は悪天候時の低体温症に注意する。

「写真でたどる山と花の旅① 白馬三山（改訂版）」 2003.7.23 著者 中村至伸 ほおずき書籍

「好日山荘 Magazine」 <https://magazine.kojitusanso.jp/2892/> 最終閲覧日2021/11/2

長野県警察 <https://www.pref.nagano.lg.jp/police/sangaku/yamacardnalps.html> 最終閲覧日2021/11/2

探してみたい準絶滅危惧種 『シロウマリンドウ』

リンドウ科シロウマリンドウ属

準絶滅危惧種に指定されている白馬連峰の特産種

8月～9月の大雪溪付近の草地や礫地でまれに見ることができる

「白馬自然観察ガイド」 著者：中村至伸（2003）p55

「白馬の自然」 編著：土田勝義（1994）p73

「絶滅危惧種の花」（最終閲覧：2021/11/2）

<http://reddate.bitter.jp/newpage268.html>

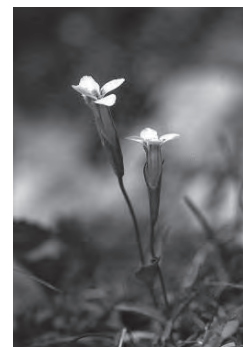
「高山植物図鑑」登山道の花（最終閲覧：2021/11/2）

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~toyam/6hana/htm/s1146.html>

写真

「ペンションぼくち」 藤井 猛（最終閲覧：2021/11/2）

<http://sun.gmob.jp/bokunchi/web-gallery/alps-flower/shiroumarindo.htm>



秘湯

劔物優 鈴木寛太 宮嶋吹雪

秘湯。普通の温泉とはちょっと違った、隠れた名湯。

簡単には行けそうではない場所にあたりすると、よりロマンがあたりするものです。

地元の人でもあまり行かない温泉。秘湯三つをご紹介します...

雨飾温泉

泉質：ナトリウム、炭酸水素塩泉
効能：切傷、火傷、神経痛、筋肉痛、慢性消化器病、痔疾他

立寄り湯料金：寸志

利用時間：10:00~21:00

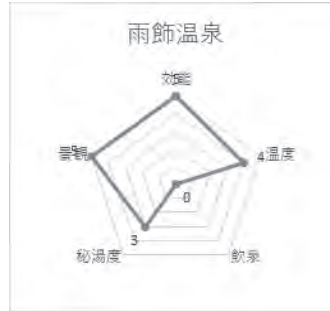
定休日：期間中無休

※冬期（11月下旬~4月中旬）休業

アクセス：国道148号線から、

「小谷温泉口」信号を東（ダム反対側）に進み、約30分

<https://www.xn--octt84bmki.com/nihon-hitowo-mamorukai/nigata-amakazari-sansou/>



小谷温泉 山田旅館

泉質：ナトリウム、炭酸水素塩泉
効能：創傷、火傷、うちみ、皮膚病他

立寄り湯料金：

大人：500円~1,000円

小人：300円~500円

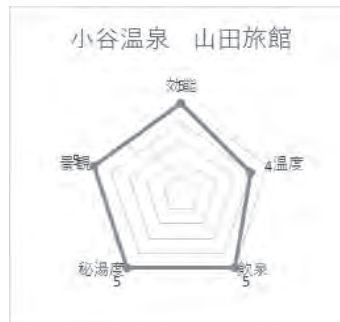
利用時間：10:00~15:00

定休日：無休

アクセス：国道148号線から、「小谷温泉口」

信号を東（ダム反対側）に進み、約20分

「日本秘湯を守る会」<https://www.hitou.or.jp/provider/detail?providerId=706>



白馬鑓温泉

泉質：炭酸水素塩泉
効能：神経痛、冷え性、疲労回復、皮膚病や筋肉痛、五十肩

アクセス：標高2100m 鑓ヶ岳の中腹に位置し、登山で4時間以上かかる雲上の温泉。

立寄り湯料金：2021年は営業しません

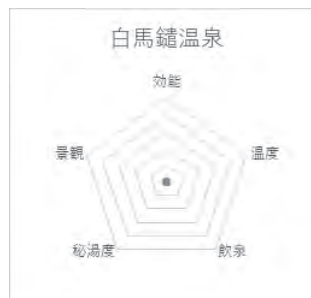
利用時間：2021年は営業しません

定休日：2021年は営業しません

「YAMA HACK」<https://yamahack.com/3981>

参考文献

- ・ 鮎沢 聡一 『日本共産党県委員長がゆく信州温泉紀行』 文藝出版、2019年
- ・ 『信州の日帰り温泉』 株式会社長野こまち、2014年
- ・ 『Komachi 12月号 信州の日帰り温泉』 株式会社長野こまち、2021年
- ・ 山田富男 『おいでよ信州・温泉編露天風呂464』 信濃毎日新聞社、2005年



HAPPY美麻

班員 下川・大西・宮下

店名 農園カフェラビット
住所 長野県 大町市大町8295-48 中山高原
電話番号 0261-85-2120
営業時間 11:00~15:00 (ランチのみ)
ラストオーダー 14:30
定休日 火水木
冬季休業 12月から3月末日まで冬季休業

※大西のお勧め料理は鹿ソーセージとポークサルシッチャの盛り合わせプレートです！



URL出典 <https://cafe-rabbit.com/about>
<https://tabelog.com/nagano/A2005/A200502/20015884/>
農園カフェラビットHP

店名 美麻珈琲
住所 長野県大町市美麻14902-1
電話番号 0261 - 23 - 1102
営業時間 10:00~17:00
定休日 木曜定休



- 手作業で厳選した、良質な豆のみを提供。
- 居谷里湿原の湧き水を使用。
- 自家焙煎のこだわり。
- サイドメニューも充実。
- セルフビルドで建てられた「ストローベイルハウス」。
- インターネット販売にも対応。

出典 <http://www.miasacoffee.com/html/page6.html>

店名 美麻ベーカリー
住所 長野県大町市美麻 3363-5
電話番号 0261-29-2970
営業時間 11:00~18:00 品切れ次第終了
営業日 金・土・日・ (1月~3月 金・土 11:00~17:00)

地元で人気のパン屋さんです。昼前にはほとんどが売れてしまうそうです
しかし美麻ベーカリーのパンは美麻ほかほかランドでも販売しているので、
売り切れを心配されている方は是非こちらでお買い求めください！

出典 <https://hanamame.localinfo.jp/posts/6784333/>

パワースポット

○スノーハープ 願いが叶う祠 西澤 来波

白馬村の代表的な競技場であるスノーハープには、地元でも一部の人しか知らないパワースポットがある。

白馬クロスカントリー競技場は、スノーハープの愛称で地元の人々に親しまれている。『施設東側のランニングコースは、適度なアップダウンがあり、クロスカントリーのトレーニングにはもちろんのこと、陸上競技のトレーニングにもご利用いただけます。』（白馬クロスカントリースキー競技場information パンフレットより）

そんなスノーハープには、隠されたパワースポットが存在する。それは競技場の少し奥、コース上から少し外れた祠である。この祠には、”**願いを叶える力がある**”とされている。ぜひ実際に行って、確かめてください。



: Google earth

○平川のハート石 利根川 太郎

縁結びの効果に期待。

平川でハート型の石を極稀に見かける事がある。ハート型の石は、おそらく人が意図して手がけたものではなく、自然循環の中で生成されたものであろう。平川のハート石に纏わる話を耳にすることはあまりないが、ハート型の石は全国的にパワーストーンとして有名である。ハート型の石が持つ能力は恋愛運だ。以上の事から、何らかのパワーを得られる新たなパワースポットとして、平川を認めても良いのではないだろうか。

天然石 パワーストーン 意味辞典:https://www.ishi-imi.com/2006/09/post_24.html

○一本角のカモシカ 平田 悠理

- ・見れたら願いが叶うと言われている一本角のカモシカが白馬村落倉の浅間(せんげん)山にいるらしい。
- ・浅間山の山頂付近には祠がたくさんあり、そこに祀られている山の神様が姿を変えて人間の前に姿を現すとのこと。
- ・冬はスノーシューやバックカントリーができることで人気の浅間山。
- ・戦国時代はのろし台として使用されていたという。そのため小高いところにある。
- ・墓地もいくつかある。



浅間山の基本情報

標高：931m

所在地：北安曇郡 白馬村 北城

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-293637.html>

ヤマレコ より (最終閲覧日 11月8日)



～塩の道～

歴史

塩の道とは糸魚川の川船の終点から、松本市までの塩の運送に使われていた道です。この道は江戸時代まで千国街道と呼ばれていました。

塩の道は、戦国時代には上杉謙信が敵である武田信玄に塩を送る故事である「義塩」の故事に出てきた道として有名です。江戸時代などには塩や魚などの海産物、高岡の鋳物や輪島塗などの特産品やたばこや麻などの内陸地での生産品が運ばれていました。

当時夏は牛方という職業の人が牛を利用して物資を運んでいましたが、塩の道は雪がかなり降るので歩荷という職業の人が歩いて物資を運んでいました。

この道は新道が整備される明治時代初期まで主な街道として使用されてきました。現在は塩の道祭りや小谷の紅葉や新緑が美しく、歩いて観光する人が多いです。

ルート



←塩の道全体のルート

写真 1

塩の道祭り

この祭りは小谷村→白馬村→大町市という順番で開催されます。3日間のルートの合計は約30kmです。道中にある安全を祈った道祖神や景色を楽しんだり、地元の有志の方による漬物やお茶を飲むことができます。ゴールのメイン会場では有料のおかきなどのローカル屋台や当時の姿になりきる旅姿コンテストがあり、歩くことが難しい人でも楽しめるお祭りです。

岩岳マウンテンリゾート

<マウンテンカート>

山の上からハンドル操作とブレーキで山を駆け降りるスリリングなマウンテン・アクティビティ。

営業期間：2021年7月17日（土）～11月14日（日）

営業時間：9:30～16:00

料金：1,500円（ゴンドラリフト料金別途）

無料レンタル：ヘルメット・ゴーグル・プロテクター

対象：10歳以上、身長130cm以上、体重110kg未満



<ヤッホー！スウィング >

北アルプス白馬三山を正面に、雄大なアルプスに飛びこむような感覚を楽しめる絶景大型ブランコ。爽快感のある映えスポット！

場所：山頂（HAKUBA MOUNTAIN HARBOR横）

営業期間：4月29日～11月14日

営業時間：9:00～16:00

料金：500円（1名/1回）

対象：身長110cm以上、体重100kg未満、ウエスト100cm未満の方

長野県北安曇郡白馬村北城12056

TEL 0261-72-2474

<https://iwatake-mountain-resort.com/>

担当：関根 くるみ

白馬EXアドベンチャー

<EXアドベンチャー>

スタートからゴールまで約8mある様々なアスレチックを子供から大人まで幅広く体験できるアドベンチャーコース。

第1コース、第2コース、EXバンジー「飛祭」、EXコースター「舞祭」があるよ！！

- ・フルコース料金（第1コース・第2コース・飛祭・舞祭）

大人¥5,600 小人¥4,600

- ・基本コース料金（第1コース・第2コース両方利用可）

大人¥4,600 小人¥3,60



長野県北安曇郡白馬村北城12111

TEL 0261-72-7860

<https://www.pahakuba.com/rafting/>

担当：鎌倉春音

<ラフティング>

白馬村を流れる姫川を、北アルプスの雄大な景色の中をボートで下るラフティング！ラフティングを楽しんだ後は、白馬塩の道温泉でのうれしい温泉付き！

- ・ラフティング料金 大人¥8,300 小人¥6,300

- ・MIXプラン料金 大人¥11,800 小人¥8,800

（EXアドベンチャー基本コース+ラフティング）

柵池

〈柵池高原スキー場〉

初心者も上級者も楽しめるコースが盛りだくさん！コース全体の幅が広いので、安全に自分のペースで滑れる！

料金

大人 ¥5,500

子供 ¥3,300

その他料金はホームページで！



〈白馬つがいけWOW〉

美しい大自然も一緒に楽しめる全く新しい、未体験のスリルが楽しめるアドベンチャー。メインアクティビティ トビダス・コギダス・ポチャダス！！

〈一般〉

・トビダス	¥1,000	
・コギダス	¥2,000	
・ポチャダス	大人 ¥2,800	子供 ¥2,500
・フミダス	¥800	
・カベダス	¥500	

長野県北安曇郡小谷村千国乙12840-1 柵池ゴンドラリフト株式会社

TEL 0261-83-2255

柵池高原スキー場 <https://www.tsugaike.gr.jp/snow/price>

白馬つがいけWOW <https://www.tsugaike.gr.jp/green/wow>

担当：宮嶋 林檎

白馬グリーンスポーツの森

〈基本情報〉

・営業期間：4月29日～10月31日

・営業時間：8:30～17:00

・入場料無料

・園内全面禁煙

アクティビティー

白馬民俗資料館

BBQ

キャンプ etc.



〈毎日遊べるアクティビティー〉

テニス 公園内四面 野外緑地四面

・コート利用料 一面一時間1,500円

マレットゴルフ・プレイ代600円(用具代込み)

・用具持参150円

イカダ遊び ・無料

アスレチック

スライダー (大小) タイザーロープ

ロープウェイ 吊り橋(大小)

・無料

長野県北安曇郡白馬村北城265

TEL 0261-72-4755

<https://green-sport.hakubakousha.com/>

担当：松沢 幸

八方うさぎ平テラス

石田英杜 太田朱里 藤塚亜子

標高1400mから白馬の街並みや壮大な信州の山々を見渡せる白馬八方尾根うさぎ平。
ゴンドラリフト山頂駅に併設するうさぎ平テラスは八方尾根観光の拠点となっている。
流星群観測会なども開催され、1日中楽しむことができる。

営業時間 8:30~16:30



HAKUBA MOUNTAIN BEACH

* サウナ & ジャグジーエリア *

ゴンドラサウナ・テントサウナ・天然水の水風呂・ジャグジーなどがあり、絶景を眺めながらサウナを楽しむことができる。

※中学生以上が利用可能
2時間 ¥1500

* ビーチラウンジエリア *

広々とした空間にハンモックやビーチチェアなどが置かれたフリースペース。併設するバーでは地元産の食材を盛り込んだオリジナルフードやドリンクで、一層非日常を体感できる。

信州牛と国産豚のスモークチーズ
バーガー：¥1,400
白馬産ブルーベリーエルダー
フラワーソーダ：¥700

軽井沢プリモ白馬店

あつあつ鉄板ピッツアをはじめ、本格イタリアンを味わえます。軽井沢ビール等々、アルコールメニューも豊富にご用意。また、イタリアン以外の創作料理もある。

営業時間：10:00~16:00

ポルチーニ味噌クリームパスタ：¥1,840

信州スモークサーモンピザ：¥2,720

参考資料

<https://www.happo-one.jp/usagidaira/>

<https://hakuba-mountain-beach.com/>

<https://www.asahi.com/and/article/20190806/300124741/>

アクセス

JR大糸線白馬駅からアルピコ交通バスで白馬八方バス停で下車

運賃：¥180 1日10便あり（季節運行のため事前に要確認）

白馬八方バス停より徒歩10分

八方尾根ゴンドラリフト「アダム」乗車約8分、うさぎ平駅（山頂駅）下車

運行期間：6月中旬~10月末

運賃：大人往復¥2000/小児往復¥1010

お問い合わせ

白馬観光開発（株）八方営業本部：TEL：0261-72-3280 / FAX：0261-72-5598

住所：〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村北城



カフェ

小谷村カフェ

喫茶 憩

住所：〒399-9422

小谷村千国乙12840-1

定休日：不定期

営業時間：10時～16時

駐車場あり（5台）

wi-fiあり



本棚に漫画が多数あり、リラックスしながら見ることができる。
量が多いので沢山食べたい人におすすめ。

カフェえんとつ

田園風景を見ながらのどかな時間を過ごせるイタリアンカフェです。自家製の Pasta やピッツァがとても美味しそう！ご飯を食べにいくのもカフェとして手作りスイーツを楽しむこともできます！ぜひ行ってください。



営業時間

火～日 10:30～15:00

住所

長野県大町市常盤泉6935-12

電話 0261-22-8866

菓子ト珈琲Pinto

美味しいコーヒーとお菓子を買ってお家時間を優雅に過ごしませんか？

テイクアウト専門店でケーキや焼き菓子が美味しそう！大町合同庁舎から歩いて5分！テイクアウト制だからこのご時世でも安心して買いに行けます。



営業時間

金～日 10:00～18:00

住所

長野県大町市大町4147-1

電話

080-7830-2386

協力してくれた方

ベイコン綾子さん

写真引用：[小谷]<https://hotel-hakuba.seesaa.net/article/461213872.html>
<https://tabelog.com/nagano/A2005/A200503/20005197/dtlphotolst/1/smp2/>
https://www.amakazari.com/relation/meal/cafe_13gatsu/
<https://tabelog.com/nagano/A2005/A200503/20020990/>
[大町市] <https://www.deli-koma.com/image.jsp?id=41956>
<https://blog.nagano-ken.jp/hokuan/foods/14672.html>
[サイト]<https://entotu.com/>
<https://blog.nagano-ken.jp/archive>

白馬村おすすめカフェ

今回は白馬村のエコーランドエリアと八方エリアから一つずつおすすめカフェをピックアップしてご紹介していきます！

～エコーランドエリア～

【Sounds Like Cafe】

営業時間：9:30～16:00（フード ラストオーダー15:00）

定休日：土・日・祝（臨時休業あり）

住所：〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村北城3020-504

・エコーランド上部に位置する超人気カフェ！
コーヒーやカフェラテ、カプチーノはもちろん
様々なフルーツのシェイクなども楽しめる品ぞ
ろえ豊富なお店です。

フードも充実しており、ハンバーガーやサンド
ウィッチなどのジャンクフードがそろっていま
す。味もとてもよく量もあるため満腹になる喜
びを味わえると思います。

デザートやスイーツも好評で特にキャロットケ
ーキは非常に人気があります。

SNS映えする店内装飾や、屋外テーブルなど行
くだけでも非常に価値のあるお店だと思います！



～八方エリア～

【LUCÉ by ARISUE SPICE】

営業時間：7:30～22:00

定休日：不定なので随時確認する必要がある

住所：長野県北安曇郡白馬村北城 4313-1

（マウンテンサイド白馬の1Fが店舗です）

・店主の蟻末さんは5年前に白馬村に移住され、2019
年から白馬や安曇野エリアを中心にキッチンカーと
して様々なイベントにて、出張料理やワークショップ
などを運営されてきました。

2020年12月にLUCÉ by ARISUE SPICEはオープン。
その名の通りスパイスに定評があり、カレーやガパ
オライス、タコライスなどのフードは非常に特徴的
でおいしく、他では味わうことのできない絶品料理
となっています。またドリンク類も充実しており、
コーヒーやシェイクといった飲み物が多数そろって
います！



2 商業 3年【スポーツビジネス】

【科目目標】

スポーツを「自らやるスポーツ」と「見るスポーツ」という観点でビジネスと関連付けて考察する。

地域の企業団体とイベントの企画や商品開発企画を行う。

【内容】

- ・プロスポーツと余暇におけるスポーツ
- ・ビジネスの仕組み
- ・スポーツイベント
- ・スポーツビジネスとマーケティング

【実施事例】

「地域応援 10代フェス」

8月17日（火）岩岳リゾート

⇒ コロナ禍で多くのイベントが自粛される中、発表の場を失った10代の若者にその場を提供し、地域の人たちに音楽を通じて元気を届けたいという思いで生徒が発案、企画運営にあたった。

必要資金はクラウドファンディングによって集めた。

⇒ 12月12日（日）マイプロジェクト長野県 Summit にて長野県知事賞受賞
全国 Summit 出場決定

地元企業へ相談



会場の下見



クラウドファンディングでの資金集め

17才、動きます。

「あぐ」と「あまこ」が17才、10代で地元が大好きな白馬村を盛り上げるためにイベント開催を企画。クラウドファンディングで資金を集め、このたびはついに開催が決まりました。参加費は無料。若い力での所村を元気にしていきます！

8月17日、地域応援SKYフェス開催！

PLACE 白馬岩岳マウンテンリゾート
白馬岩岳の高級生け花生け花展示会コンテラ代無料

TIME 10:30~15:00

EVENT 全員10代のステージ、練習日、キッチンカー

協賛: sky park, 白馬温泉, 白馬観光センター, SKYフェス

白馬高生主催！
地域応援SKYフェス

10代の若々しいパワーで地域の皆様へ元気を届けたい！！

白馬高生主催！地域応援SKYフェス～10代の私たちが地域の皆様に元気を届けます～

sky_898 まちづくり・地域活性化

現在の支援総額 目標金額
333,333円 **300,000円**

支援者数 43人 目標終了まで残り 終了

【生徒発表資料】

白馬高生主催！
地域応援SKYフェス

10代の若々しいパワーで地域の皆様へ元気を届けたい！！

白馬 Caprice SHOW

白馬 Caprice SHOW

Before: Sad faces with thought bubbles. After: Happy faces with stars.

当日まで

- 企画書作成・提出
- 出演者・PAに依頼
- クラウドファンディング

Instagram @sky898_

- SNSに発信
- プレスリリース
- 必要物の発注
- ポスターの掲示

各飲食店に張らせていただいたポスター

クラウドファンディング

17才、動きます。

協力してくださった方々

- ・白馬岩岳マウンテンリゾート（会場）
- ・スノーピークランドステーション白馬
- ・株式会社 金七ホールディングス
- ・白馬ロータリークラブ
- ・ボランティア、地域の皆様



イベント後

- ・村の人たちからの「ありがとう」
- ・メディアの影響
「コロナ収束後、家族で遊びに行きます」

↓
自分から行動することの
大切さ



ステージ

白馬 Caprice SHOW
MHS
Nico-Hani
Rice Tone
白馬高・小谷中吹奏
楽部
など



縁日コーナー

- ・ヨーヨー釣り
- ・スーパーボールすくい
- ・おもちゃくじ引き
- ・お菓子くじ引き



今後

- ・今回のイベントでお世話になった事業所に、松本工業高校の皆さんと共同で二酸化炭素濃度計の設置をする。
- ・今後の白馬のイベントに参加し、無償で縁日コーナーの運営をする



3 観光 I

【対象生徒】 国際観光科 1年

【科目目標】

観光に関する基礎的な知識をつける
観光に対する興味・関心を高める
地域の魅力を理解する
地域の魅力を発信する

【内容】

- ・地域理解
塩の道学習、白馬小谷両地域の学習、近代アウトドアスポーツの歴史、春～初夏の白馬小谷
- ・分析+発表
白馬小谷の特色の分析、他地域との比較、地域観光業の課題と工夫等、PPT 講座
- ・初夏～晩秋の白馬小谷
- ・理解+分析

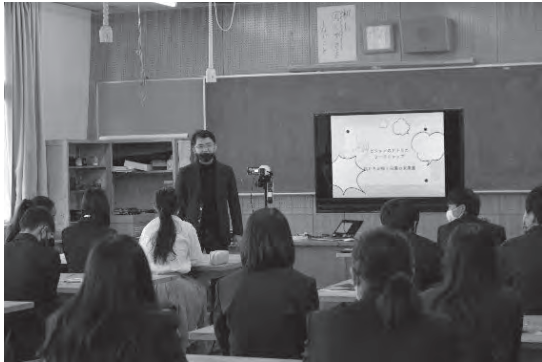
晩秋～冬季の白馬小谷，実感+調査+データ分析を通じた白馬小谷の魅力と課題

【実施の様子】

サーキュラーエコノミー（循環型社会）実現に向けて

⇒白馬村観光局と連携し，国際観光科1年生【観光I】がワークショップ参加。

対面WS：5月27日（木）5・6時限 オンラインWS：6月8日（火）2・3時限



講師：佐宗邦威 氏（京都造形芸術大学創造学習センター客員教授）

⇒7月1日（木）ビジョンデザインブートキャンプに生徒5名が参加。

白馬村都市計画マスタープラン作製に協力



○ PBL (Project Based Learning)

1 総合的探究の時間 1年

- 内 容 課題研究 ～身の回りのこと、自分の好きなことについて探究しよう～
- 目 的 課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という探究の手法を身につける。
- 方 法 ①テーマ設定を行う。自分の身の回りのこと、好きなことに関する問いを立てる。
②自分の立てたテーマについて、文献・インターネット等を通して情報を集める。
③レポート・スライドにまとめ
④台湾の学生に向け、オンラインで発表

実施内容

- 9月29日 探究オリエンテーション テーマ決定
(好きなことを挙げる→それについての簡単な調べ学習→問いの設定)
- 10月13日 地域の方の講演会「探究するとは」
講師 佐藤敦俊 氏 (モンスタークリフ株式会社)
本校図書館司書による講義・調べ方レクチャー①
- 11月17日 県立図書館によるオンライン講義・調べ方レクチャー②
- 11月24日 文献調査「長野県立図書館研修」



- 12月1日 調査のまとめ、まとめ方レクチャー
- 12月17日 糸魚川高校との交流学習
「ブレインストーミングとKJ法で地域について考えまとめて発表する」



- 12月 8日 発表準備（レポート・スライド制作）
- 1月 19日 レポート提出・チェック
- 1月 26日 校内（クラス内）発表
- 3月 7日 台湾の学生に向け発表・交流

【生徒発表資料】



これまでの活動

- ・探究の問いの設定

自分の好きなものを書き出す
↓
特に調べたいものを一つ選ぶ
↓
テーマを作り本やインターネットを使って
探究を行う

- ・「モンスタークリフ」佐藤さんのお話

〈モンスタークリフとは？〉
白馬村でスキー・スノーボード業界の活性化を目指す企業

〈モンスタークリフの方針〉
自分の好奇心に従う⇒行動を起こす

- ・「モンスタークリフ」佐藤さんのお話

〈モンスタークリフとは？〉
白馬村でスキー・スノーボード業界の活性化を目指す企業

〈モンスタークリフの方針〉
自分の好奇心に従う⇒行動を起こす

人と異なるからこそ出来る探究

- ・長野県立図書館の研修

「探究の問いのヒントとなるものを探した」

私の「問い」について

「卓球はなぜ有名になったのか」

私の「問い」について

「犬の感情を読み取るにはどうすればいいか」



2 総合的探究の時間 2年

内 容 SDGs 課題研究 パタゴニア白馬店による連続講座

「CLIMALE CRISIS SCHOOL in HAKUBA HIGH SCHOOL」

目 的 課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という探究の手法を身につける。

気候危機に対する知識の向上と私たちが今すぐできる行動として買い物をするとき環境に良い製品が選択肢の一つになるようにする。

実施内容

<前期>気候危機に立ちする知識と対策について理解する

第1回 5月26日(水) 気候変動の原因について

温暖化が進むとどんなことが起こるか(ワーク)

第2回 6月4日(金) 世界で行われている気候危機対策について

第3回 6月16日(水) 日本、白馬で行われている気候危機対策について

第4回 7月14日(水) 政府、企業、学生たちの活動について

文化祭にて気候危機を啓発する展示



<後期>消費行動や売られているものの背景について理解する

第5回 9月15日(水) フェアトレードについて

第6回 9月29日(水) ファッションと環境問題

第7回 10月19日(火) サステイナブルファッション

第8回 11月29日(月) 洋服のリペアのワーク

【生徒発表資料】

**CLIMATE CRISIS WORK
in HAKUBA HIGH SCHOOL**



×  長野県白馬高等学校
Hakuba High School

気候危機について

- ・気候の原因
- ・温室効果ガスとは
- ・温暖化が進むと
どんなことが起こるか

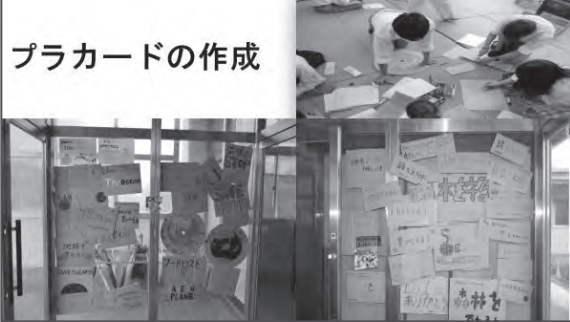


気候危機対策

- ・気候非常事態宣言
- ・白馬高校の活動



プラカードの作成



**売られている物の背景
消費行動について**
グリーンウォッシュについて



- CO₂を出さない
- 植林しています... 希釈液
- CO₂ がーボンゼロ
- 海洋汚染 絶滅にやさしい
- 化学物質
- 無添加
- 健康被害

オーガニックコットン



サステナブルファッションについて

- ・洋服を買うとき何を基準にして買うか
- ・ファッションと環境問題
- ・ファストファッションの闇
- ・オーガニックコットン



**海のエコラベルと
ファッション**

- ・どれくらいの服を捨てて 回収している
- ・古着の問題点



洋服のリペア



まとめ

- ・気候危機を学んで
- ・私達にできること



○ 成果発表

1 白馬フォーラム～学習成果発表会～

日 時 12月17日（金） 9時30分から12時まで

会 場 ウイング21

目 的 自分の興味・関心があることから具体的なアクションを起こし行動する人を増やす

発表者 探究活動に取り組んだ生徒の代表者（1～3年生のべ28名）

「ウォーターサーバープロジェクト」プロジェクト学習部2年

「私たちの1年間の活動まとめ」プロジェクト学習部1年

「高校生ホテル」国際観光科2年

「デュアル実習」国際観光科3年

「地域応援 SKY フェス」国際観光科3年

「HLAB サマースクール小布施」国際観光科3年

「1年探究学習」普通科1年

「2年探究学習」普通科2年

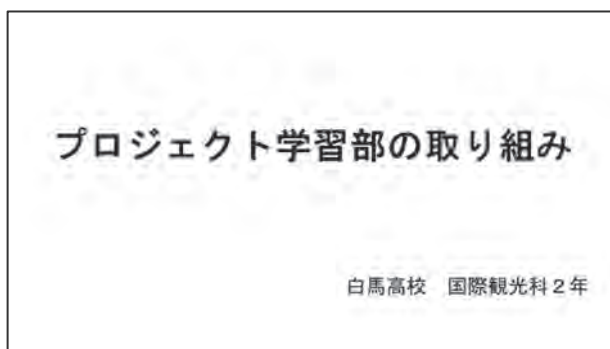


2 各種イベント、セミナーでの発表

(1) 「地域と学校で取り組むSDGs」オンライン発表 <2年生2名>

10月12日（火）生涯学習推進センター

⇒昨年実施した断熱プロジェクトと今年度取り組み中のマイボトル制作について発表。



Haction



断熱ワークショップ



ウォーターサーバープロジェクト

きっかけ

- ・浜松開誠館高校との交流
- ・生徒の水道水への意識の違い



水道水への意識の違い



地元生
水道水を飲む人が多い



県外生
水道水を飲むのに抵抗がある人が多い

水道水を飲まないことによる影響

喉が乾いた時に自動販売機の使用が増加してしまう



プラスチックゴミが出てしまう

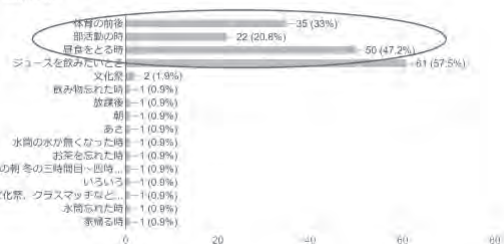
マイボトルで地球環境も地域経済も



マイボトルを村内のカフェ対応させる

自動販売機は使用することが特によくするのはいつですか

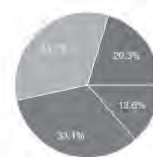
106 件の回答

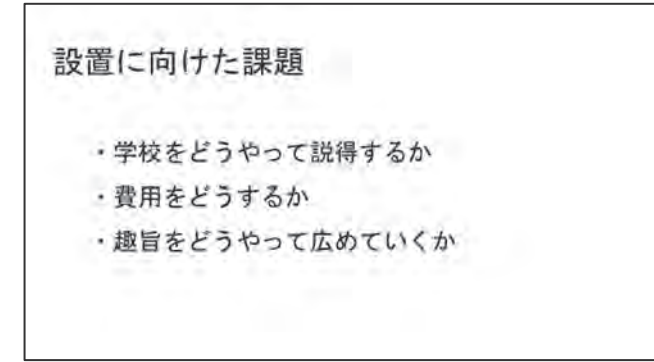
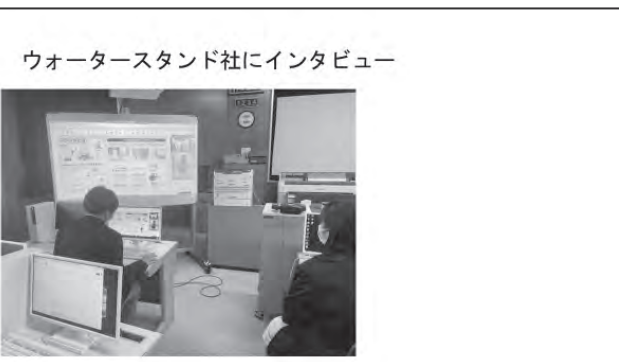
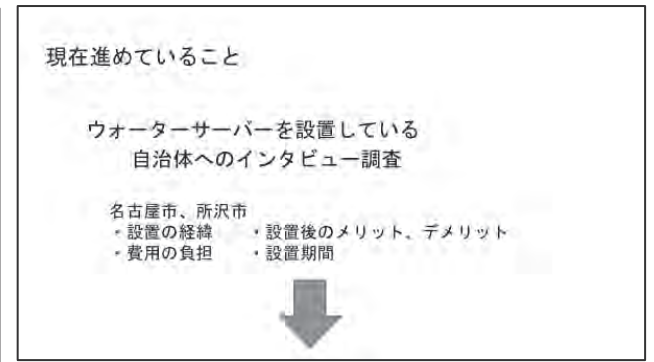
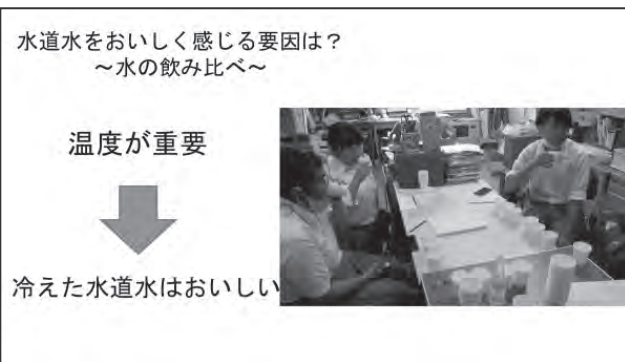
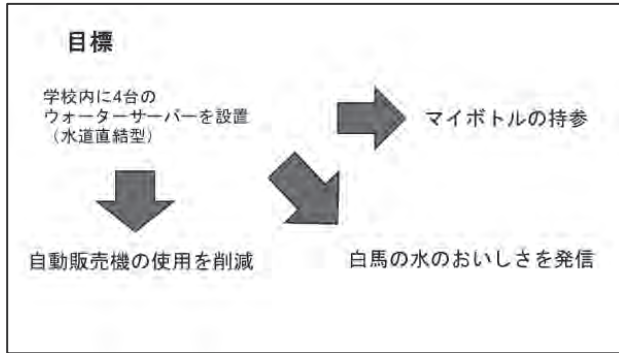


全校生徒へのアンケート調査

白馬高校でどのくらい自動販売機を使用しますか

118 件の回答





大学生にプロジェクトのアドバイスをもらう



- (2) 「信州環境フェア 2021 ～ゼロカーボン実現に向けて～」 <1年生2名>
8月20日(金) 長野市役所
⇒降雪量の減少が観光業に与える影響を実感したことから、YouTubeを通じて白馬の魅力を発信するようになったことを学生プレゼンテーションとして発表。
- (3) 学習院大学(深見嘉明研究室)とのオンライン学習 <1年生5名>
9月15日(水)から毎週水曜日
⇒白馬の課題について大学生とともに考え、課題解決に向けて提案し、それに対して助言をもらいながら学びを深めている。
- (4) 小中高全国気候サミット(浜松開誠館高校主催) <2年生2名>
10月9日(土) オンライン参加
⇒「私たちはどんな未来を生きたいか」「気候非常事態宣言都市が増えないのはなぜ?」「私たちが地域協働を実現するためには」の3つの観点でディスカッション。
- (5) 日台ユースセッション「WEB版小水力甲子園」 <1年生6名>
10月29日(金) オンライン参加
⇒将来自分たちが地域の再生可能エネルギーと向き合い、関わるためにはどのような情報が必要か、台湾の高校生や日本の高等専門学校を含めた5校でセッションを行った。

IV 仮説Ⅱに関する活動内容

1 「地域と暮らしのゼロカーボン勉強会」

白馬村は、2019年12月に「気候非常事態宣言」、2020年2月に「ゼロカーボンシティ宣言」をして、2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指している。ゼロカーボン達成に向けた基本方針等を協議している「白馬村再生可能エネルギー連絡協議会」の委員に白馬SDGsラボと生徒3名が昨年度選ばれた。この委員の有志により「地域と暮らしのゼロカーボン勉強会」が立ち上げられ、ゼロカーボンに関する勉強会を開催した。

- 第1回 5月20日 ゼロカーボンって何？
- 第2回 6月3日 地域から取り組むゼロカーボン，市民主体の視点から
- 第3回 6月10日 サーキュラーエコノミー ～欧州実践例から循環型経済の可能性を学ぶ～
- 第4回 6月24日 みんなでやってみよう！コンポストで生ごみの堆肥化
- 第5回 7月8日 白馬のゴミのゆくえ ～リサイクルを超えるゴミの新潮流～
- 第6回 7月29日 再生可能エネルギーとデジタルグリッド
- 第7回 9月9日 建物の断熱と気密の重要性
- 第8回 9月30日 消費から考えるゼロカーボン
- 第9回 10月21日 アクティブ・ブック・ダイアログ®で読む『サーキュラーエコノミー』
- 第10回 11月11日 南国の島と雪国の村の子どもたち
- 第11回 11月25日 八方尾根スキー場 脱炭素への道
- 第12回 12月2日 フライブルクのSDGs 市民参加がここまできているワケ



2 生徒の自主的な活動

(1) 生徒会

地域への恩返しプロジェクト

生徒会役員が日頃授業や校外活動でお世話になっている地域へ恩返しをする企画。

実施日 11月18日(木) 19日(金)

内容 村内の落ち葉の清掃

集めた落ち葉で焼き芋をする



(2) プロジェクト学習部

①「ウォーターサーバー・マイボトル・マイカッププロジェクト」

生徒、職員合わせて200人弱の学校に自動販売機4台は多いのではないか?という疑問からマイボトルの普及、利用促進を促すプロジェクト。

プロジェクトメンバーミーティング



他の生徒への啓発活動



ロータリークラブでの発表



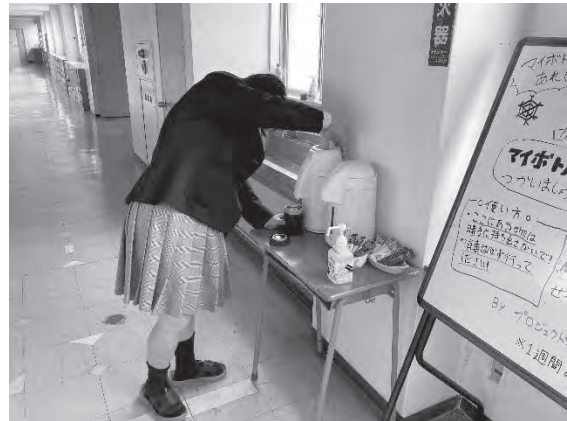
地元中学生との情報交換



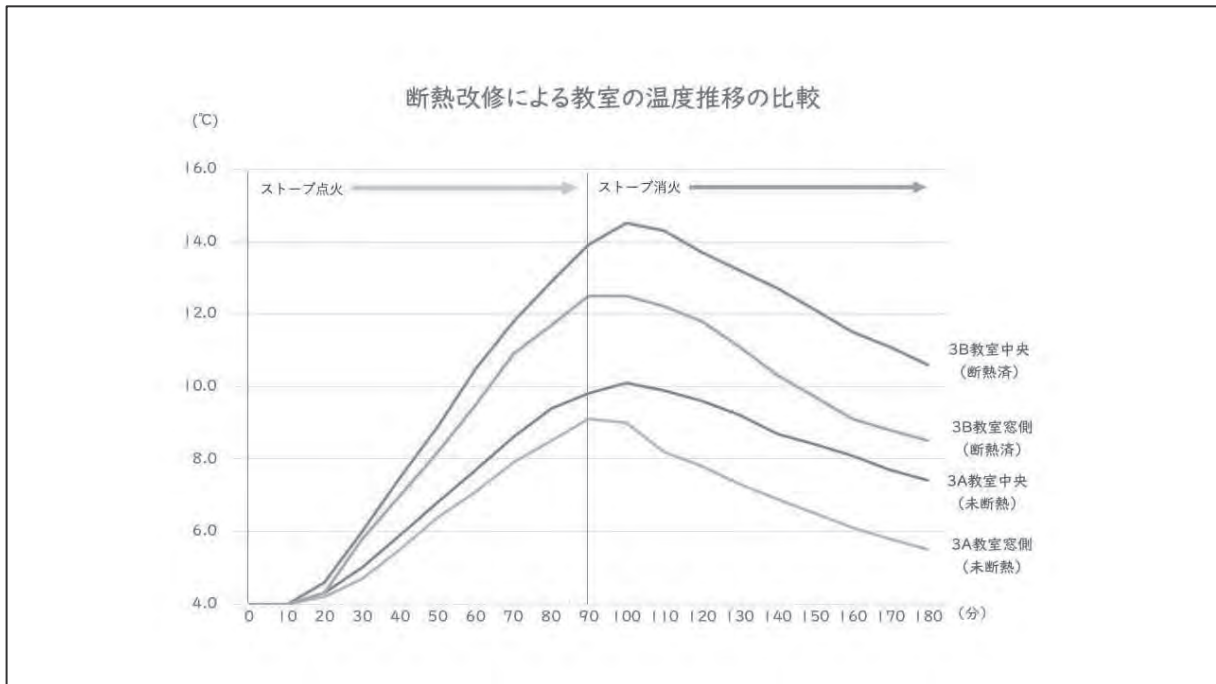
校長先生へ企画のプレゼン



ウォーターサーバーの設置実験



②断熱改修ワークショッププロジェクト
断熱教室の温度変化の実験



V その他の活動内容

(1) グローバル講演会

⇒「社会における自己の役割」や「自分らしい生き方」を考える機会として毎年実施

○第1回 10月27日(水) 14:00から 会場 ウイング21

講師：福島 のり子 氏 (バンクーバーオリンピック出場, 本校卒業生)

演題：「白馬で生きる」

パネルディスカッション：白馬の良さと将来のビジョンについて生徒3人が意見交換



(2) デュアル実習

国際観光科3年生6名が、それぞれ希望した事業所で放課後や休日を利用して50時間程度の体験実習を実施。学びの成果は、12月の白馬フォーラムにて発表。十分な学修の成果が認められた場合、該当生徒には「観光I」の増加単位として2単位が認定される。11月から普通科2年生2名が実施。

〔今年度協力企業・自治体〕

(株)岩岳リゾート, (株)シェラリゾート白馬, 白馬東急ホテル, パタゴニア白馬店, 白馬村(順不同)



VI 目標の進捗状況、成果、評価

仮説1「生徒の学習活動に対する当事者意識と課題解決力が高まる」について

高校魅力化評価システム（以下、評価システム）の①学習活動・社会性に関わる学習活動についての「15 地域の課題の解決方法について考える」という項目は、2019年59.8%、2020年47.8%、2021年57.9%と初年度よりやや低下がみられた。これは、地域の課題についての授業が2020年は新型コロナの影響で本校の特色である地域での実習の多くが中止になり、オンライン授業や教室内での講義になったことが影響していることが考えられる。「16 日本や世界の課題の解決方法について考える」という項目は、2019年47.2%、2020年47.2%、2021年56.3%と上昇がみられた。

また、評価システムの②学習環境・主体性に関わる学習環境の「21 挑戦する人に対して応援する雰囲気がある」という項目が、2019年79.2%、2020年81.8%、2021年91.3%と上昇がみられた。これは、一昨年気候変動やSDGsについて一部生徒が主体的に行動し、本校でのSDGsに関する取り組みが多く行われていることが影響していることが予想される。

学習に対する当事者意識については、個々の生徒の属性による影響はまだ大きくカリキュラムによって大きく変わったと生徒、職員が実感するところまでは至らなかった。しかし、一部生徒ではあるが地域での実習を通して学ぶことの意義を見だしスキル、知識のインプットが必要な教科学習も意欲的に取り組む姿が見られた。

課題解決力については、体験、経験を通してのアイデアの発想力、想像力は授業でのプレゼンテーションで確認ができたが、データに基づく論理的な思考という部分についてまだ不足を感じる。

仮説2「地域全体で社会問題についての関心が高まり、地域の人と生徒が地域の未来について考えることができる」について

評価システム②学習環境・社会性に関わる学習環境「29 地域の人や課題にじかに触れる機会がある」という項目が、2019年68.5%、2020年59.7%、2021年73.0%と上昇がみられた。これは、白馬SDGsラボの活動での本校生徒活動がうまく融合し、地域での気候変動やSDGsに関する情報が本校に多く入ることになり、授業へ取り入れたり、生徒が地域のワークショップに参加するなどといった活動の成果ではないかと考える。

仮説3

生徒は白馬・小谷地域に対する愛着が高まる

評価システム②学習環境・社会性に関わる学習環境「19 地域から大切にされている雰囲気を感じる」の項目では、現3年生の経年変化を見ると、1年次77.2%、2年次71.1%、3年次77.8%で2年次にやや下降し3年次は1年次と同じ水準である。本校は県外や県内の他地区からの生徒もいるため寮・下宿で生活をしている生徒も多にいる。寮・下宿での生活だけでなくボランティア活動に積極的参加する生徒が多い。そのため地域との関りが多いがゆえに、時には地域の方から厳しいことを言われることもある。2年次である2020年は新型コロナの影響もあり地域でのボランティア活動がなく、地域との交流が少なかったが、今年度は徐々に地域での実習やボランティア活動が再開され地域の人との関りが増えてきたことが影響していると考えられる。

Ⅶ 次年度以降の課題及び改善点

本研究の初年度は、インバウンドを軸とした地域振興の真ただ中での研究推進であったが、それに続く2年間は、まさにコロナ禍においてどうやって地域を守っていくかという、地域の切実な思いを間近に感じての取り組みとなった。

現在、白馬・小谷地域では、この地域ならではの雄大な自然環境を生かした通年型マウンテンリゾートの実現をめざした様々な取り組みを行っているが、この取り組みによって、地元のローカルと移住者、自治体と民間企業、日本人と外国人など、多様な結びつきとダイナミックな動きが生み出されている。白馬・小谷地域にとって、今がまさに「変革期」といえる。

本校は、この変革期の大きなエネルギーも取り込みながら、「地域が学校の学びを支え、そこで学んだ生徒たちがやがて地域を支えるという循環」の創成を目標として本研究に取り組んできた。そこで改めて強く認識したことは、本校の特色ある教育活動が“白馬”という地域の特性とそこに住む人々の多様性によって支えられていることであった。

この取り組みを通して、生徒や地域の意識改革などで成果をあげられた一方で、地域の力を学校の教育活動に取り込むことが十分にはできなかったという課題も明らかとなった。

今考えている要因として3つのことが挙げられる。

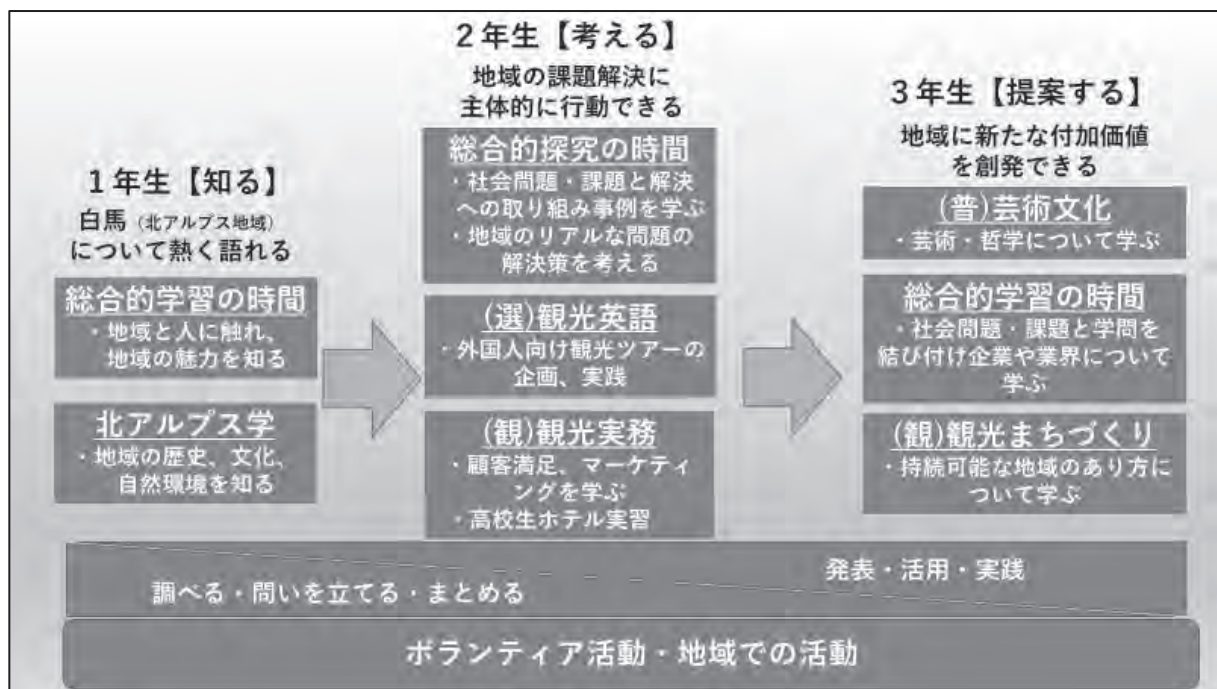
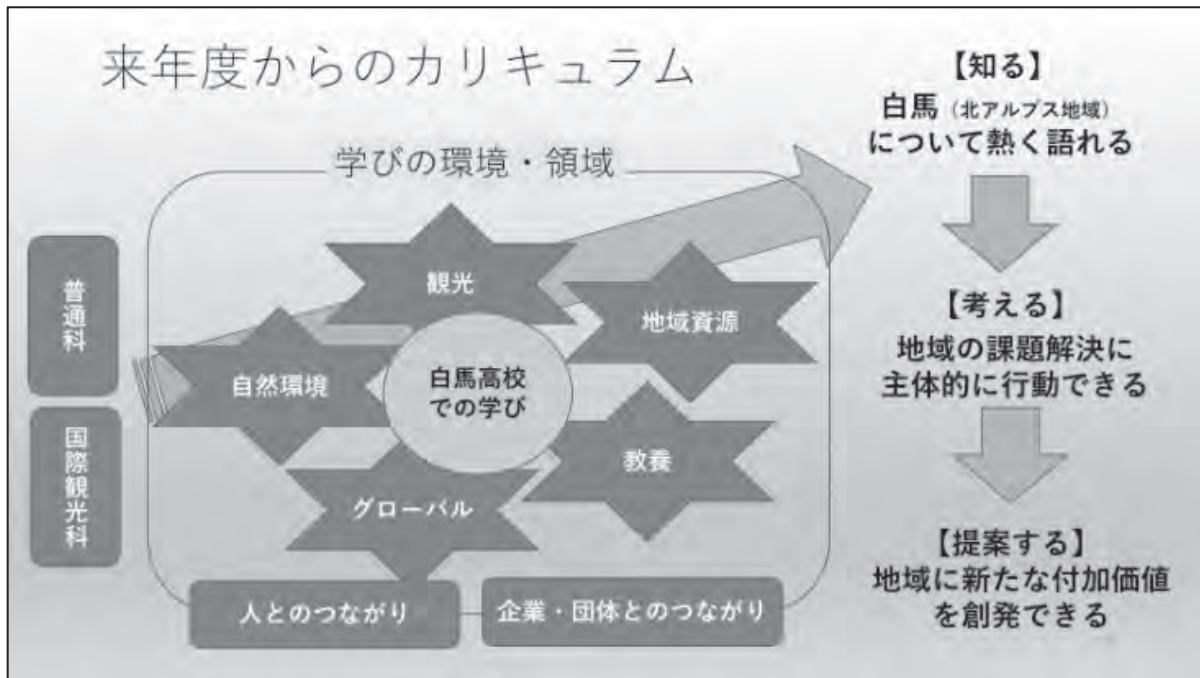
1つめは地域の時間と学校の時間がうまく合わないことである。地域の人との一緒になってワークショップや活動をする場合、企業や団体が業務として行う場合は平日の昼間に短期集中で行われる。地域の有志による活動の場合は平日の夜か土日、休日に行われることが多い。学校は授業の場合、毎週決まった時間に50分単位で授業が行われている。そのため、地域と学校が互いに時間を調整したり、学校内での授業交換など課題が多い。授業で生徒に興味・関心を持たせ、課外の活動として地域の有志の活動に生徒が参加する方法が現状では最適であると考え、授業で学んだことをもとに地域で活動するという流れをより体系化していきたい。

2つめは、職員が地域の現状を理解するには時間がかかることである。本校の教育活動は、地域との結びつきも強く、フィールドワークを基本としていることから、他の普通科高校から異動してきたばかりの教員は戸惑うことが多い。複数年かけて授業を行う中で、徐々に地域関係者によりよい関係性が構築されるが、教員には定期的な人事異動があり、地域のことを理解した頃に異動となることが多い。本校には、教育活動を支える地域コンソーシアムがあり、有益なご提案を継続的にいただいているが、直接それに関わる教員以外には接点がなく、本研究では全職員が地域の方とのつながりを持つまでには至らなかった。地域にはキーパーソンとなる人物が何人かいるので、その方と教員がつながり、各教科の授業に還元・転換できるような仕組みを構築したい。また、地域との連携授業を実施する際には、担当を複数名で対応し、属人的な地域連携から組織としての地域連携の仕組みの構築も必要である。

3つめは、学びをどのようにプログラムするかである。探究学習をより効果的にするには本人の興味・関心に基づく知的好奇心といったマインドと情報収集や分析といったスキルが必要である。本校生徒には、体験的な学習を通じて地域や社会に興味・関心を持ち積極的に取り組む様子が見られた。一方で、データや既存資料からの情報収集や論理的な考察、関連知識による総括といった点についての苦手意識を払しょくするまでには至らなかった。体験的な学習と関連する知識やスキルに取り組む学習をうまく組み合わせた授業展開、情報収集や関連知識のインプットが得意な生徒と、地域や社会に興味・関心が高い生徒とがチームになり、お互いの得意な部分を生かせる環境づくりをすることで、個々の生徒が生きる学びを構築することが必要である。

本研究を通して各教科での地域と結びついた活動は定着してきたが、各教科を横断した取り組みがまだ完全ではない。そのために、来年度入学生からのカリキュラム作りにおいて、生徒の選

扱の幅を増やし、生徒の興味・関心に応じた科目を選べるようにした。生徒自身が考えるキャリアビジョンが実現できるように科目を編成した。



Ⅶ 運営指導委員会

令和3年度 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」 長野県白馬高等学校第1回運営指導委員会 議事録

- 1 日時 令和3年6月16日(水) 10:00~12:00
- 2 場所 白馬高等学校会議室
- 3 出席者 (敬称略)
運営指導委員
委員長 白戸 洋 (松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)
委員 伊藤 まゆみ
柴田 友造 (白馬山麓事務組合 事務局長補佐)

指定校
関 正浩 (白馬高等学校長)
井出 敦 (白馬高等学校教頭)
浅井 勝巳 (研究開発主任)
柳田 優 (カリキュラム開発等専門家)
管理機関
廣田 昌彦 (長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課
教育幹兼高校教育指導係長)
有賀 浩 (長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課 主幹指導主事)

4 内容

(1) 開会行事

- ① 学びの改革支援課教育幹兼高校教育指導係長あいさつ
- ② 白馬高等学校長挨拶
- ③ 出席者紹介
- ④ 委員長挨拶

(2) 議題① 「今年度の事業計画について」

浅井教諭 今年度の研究開発は大きく3つの項目から構成している。仮説1の「学際的な教科横断型の学びとPBLが両立したカリキュラム開発」の部分は、2つの取組計画がある。

1つ目はカリキュラムの開発。新教育課程に関する部分は概ね作成はできている。総合学習と教科学習の部分については、この事業の開始当初はそれほどSDGsに重点を置いていなかったが、実際に取り組んでいくと予想以上に学びへの波及が大きかったため、SDGsをテーマに総合学習や教科学習のカリキュラムを開発していく。本日も2年生がパタゴニアの方に来てもらい気候変動をテーマにワークショップを行うが、前期は講義とワークショップを行い、最後に作品を作って文化祭で学習展示を行う予定である。後期も引き続き講義とワークショップを行い、修学旅行でもSDGsに関するワークを行い、12月に成果発表を行う予定である。総合学習でSDGsを中心に学年全体で取り組んでいくことで、これを軸に各教科の学習でも横断的につながっていく効果を期待している。1年生は国際観光科の観光の授業で、白馬村観光課による「サーキュラエコノミーの理想に向けた取組」の一環で、将来の未来像を高校生が考えるという学習を行っている。この学習

では、考え方や発想法なども含めて講義とワークショップに取り組み、文化祭で展示発表を行う予定である。また、考えるだけでなく実証に向けた取組をグリーンワーク白馬と一緒にを行う予定である。グリーンワーク白馬とは昨年度から一緒に活動を行っており、地域の方も多く関わっているため、今までの取組の延長でサーキュラエコノミーへの取組もテーマに取り入れた。

2つ目はアセスメントの完成で、これに関しては後ほど評価のところでも説明。

2つ目の仮説である「生徒と地域の人々がSDGsをテーマに学び、実践活動を行う『白馬SDGsラボ』の設置とSDGsワークショップの開催、SDGsの目標『気候変動を軽減させる取組の実践が探究的な学びの実践につながる』に関しては、SDGsラボで行っている活動が周囲へどんどん波及していった。昨年度実施できなかったワークショップが少しずつ再開し、ここで生徒たちは学びながら、浜松開誠館高校とのプロジェクトや他校の高校生と一緒にサミットの開催を検討したりするなど、ここで学んだことを周りに広めている。白馬村によるゼロカーボン宣言の一環で、いろいろな分野の人が集まり、地域の人たちのゼロカーボン勉強会が出来ている。ラボによるものだけではなく、パタゴニアの人たちや役場の観光局など、もう少し大きい集まりの勉強会が出来てきていて、そこにも生徒が少しずつ行きだしている。授業・SDGsラボ・コンソーシアムの3つの柱が良い意味で混在している。現在はそこで学んだ生徒が白馬バレーツーリズムとともに商品開発に取り組んでいる。当初はマイボトルを作る計画であったが、マイボトルだと結局はごみを生み出してしまうため、ボトルを作る計画からプラスチックを使わない生活を作るように計画が変わってきている。水道水が飲める白馬の水の魅力を伝えるマイボトルプロジェクトができないか検討している。

それ以外にも有志による自主的課外活動プロジェクトが少しずつ増えてきている。1つ目は昨年度に引続き断熱改修ワークショップ。昨年度は3B教室を行ったが、今年度は3A教室でも行う予定。同じように白馬南小学校でもPTAが中心となって断熱改修を企画しているようで、高校生と小学生でそれぞれ一緒にできないか検討している。2つ目は10代音楽フェスプロジェクト。イベント開催に興味がある生徒が考えているプロジェクトで、10代に限定した音楽フェスを行い、地域を元気づけたいと考えている。コンソーシアムの中の岩岳リゾートと打合せをしており、実施に向けて動き出している。

研究開発の中心である「学びの循環サイクルの構築」には、卒業して白馬村から外に出た人にまた戻ってきて欲しいという狙いだけではなく、在学中にも校外に飛び出して、地域の人と関わりをもちながら何か活動して欲しいという狙いがある。そんな中で学校を飛び出して地域で何か行いたいと考える生徒が少しずつ増えてきた。1年生でも何かやりたいから白馬に来たという生徒が出てきている。

研究開発の最終年度である今年度は、昨年度できなかった学習成果報告会を行う予定である。ただ学習成果報告を行うだけではなく、SDGsに対する理解が深まるように、フォーラムのような形式で行いたいと考えている。浜松開誠館高校や地域協働事業のアソシエイト校である糸魚川の高校から一緒に行いたいと申し出があるので、そのような学校と一緒に考えたいと考えている。

伊藤委員 サーキュラエコノミーの取組はこの地域内で経済を回すという事だと思うが、何年か前に産業連関表を作り、この地域で何が回っていないのか見ることができた。現時点で何を循環させたいかというものが念頭にあるのか。

浅井教諭 サーキュラエコノミーには産業連関表や地域経済循環と密接に関係があることと、昨年

度少し取り入れた物事を包括的に関連付けて考えるというシステム思考（デザイン思考）が関係してくる。この思考と産業連関や地域経済循環、さらにエコ的なシステムが入ってくるもので、いろいろな要素が絡んでくるものであるが、この地域での地域経済循環で考えると、一番はエネルギーを外から買うことが多いということが課題だと思う。

伊藤委員 2番目に多いのが教育。大学進学で村外に出てしまう。だから高校は何とか残したいという思いになる。他にも例えば白馬で作られた米がどのくらいここに残っているのか。日本の農業は家畜の飼料を海外から仕入れるようになってダメになった。飼料も白馬で作っていくというサーキュラができればいいと思う。せつかく家畜がいるのに海外から飼料を買うのはもったいないと思う。他にも輸入材が高騰していて木の値段が高くなっている。家は60年で建て替えるので、その時に地元の木を使うということが大切だと思う。また紙おむつもゴミにして燃やしているので布おむつに替えることはできないか。そうできれば紙は減らせるし、ゴミも減らすことができる。サーキュラエコノミーに関してはそのようなことも考えてもらえればありがたい。

あとはやはり村の中で起業して欲しい。建築関係など跡取りがいない状況がある。そのために商工会とタイアップをして、商工会の人に対する発表会の機会も作って欲しい。学校に来てくれるだけではなかなか来てくれないので、できれば商工会の集まりに出て行って発表を行うなどして欲しい。

柴田委員 ここで学んだ生徒たちは将来本当に戻ってくるのか。白馬で仕事に就いてくれるのか。そこに不安がある。小谷村でかつて行われていた山村留学では卒業生が実質250名いる。その人たちは何人か戻ってきてくれた。また神城断層地震の際は、その卒業生たちが自分たちで動いて、一流企業から義援金を募る活動をした。全国400社ぐらいに電話をかけ、実際に少しではあるが義援金をいただいた。小さいころから高校生まで学ぶような機会があると、大人になって戻ってきてくれる者もいる。そのためには地域とのつながりが大事。何か有事の際には助けてくれる。そこが第2の故郷になる。そうなるような学びを行ってほしい。

白戸委員長 一番のポイントは、ここで学んだ子が将来どうなるかという点。進学等で一度は外に出るが、その子たちがどれぐらい戻ってきてくれるのかという点が地域にとっては大きなポイントである。実は高校生は自分が地域に戻ってくることがどのぐらいその地域にとって効果があることかわかっていない。1年間に人口の1%が戻ってくれば、その地域は40~50年存続すると言われている。今は高齢化率が高くなったり、人口減少が激しくなっているが、中山間地の場合、今後昭和一桁世代が大量にいなくなって一時的には人口減少率が高くなるが、その影響が無くなると比較的人口は安定していき、だいたい人口の1%、白馬・小谷で言えば1年間に100人ぐらい人口が増えれば地域は存続できる。その中でターゲットとなるのが、1つは60歳ぐらいで退職した人。他には子供が1人ぐらいいるような30代前後の人。もう1つが進学・就職で村から出ていく10代から20代前半の子供。そういう人たちにどのようにして戻ってきてもらうかを考える必要がある。

大学のゼミ生の中に王滝村出身の学生がいて、その学生は王滝村に帰りたいたいと考えている。王滝村は700人の人口なので7人戻ってくれば良い。そう考えるとどのようなことをすればいいか具体的に考えられるようになる。彼女は何か大きな事業を行って、100人も200人も戻さないといけなかったと考えていたが、7人であれば何とかなるようになるようになった。自分の中学生の同級生に声をかけて、あなたが戻ってくれば7人になるなど具体的な話ができる。若い人たちにイメ

ージできるぐらいにしていかないと、何となく戻って来いと言っても、戻ってくる意味が明確にならないという点が1つある。もう1つは、例えば山賊焼きは塩尻市で年間15億円ぐらいの経済効果があるが、その原料となる鶏肉は全部県外産である。県内に鶏肉の処理場が無いから、みんな一度県外に出て、そこから戻ってくる。そこで利益が抜かれてしまうので、経済効果はものすごく落ちてしまう。同じ鶏肉でも宮崎県のチキン南蛮は、昭和30年ぐらいからやっているが、100倍ぐらいの生産量の増加になっていて、利益も上がっている。同じような仕組みが塩尻でも作れないか。先ほどの話のように、例えば断熱プロジェクトを行った。それで石油が浮いた。それは確かに効果があるが、浮いたお金をどこに使うか。県外や海外のものを買っていたら変わらない。地域の経済循環とはそういうものだと思う。その辺のイメージを持ってやらせることが大事。先ほどの王滝村では家計調査を行った結果、1世帯あたりで年間約3万円のパンを買う。300世帯ぐらいあり、1年間で1200万円ぐらいパン代に使われている。王滝村にはパン屋は無いので、その1200万円が全部王滝村の外に出ていってしまう。1家族が王滝村に戻ってきてそこにパン屋を作り、村内の半分ぐらいがそこでパンを買えば、それだけでその家族は十分食べていける。そのような具体的なイメージを高校生に持たせることによって学習につながるし、自分たちの将来が具体的に見えてくる。白馬を盛り上げるためには何億円も生み出さなければいけないと思ったら途方もなくなるが、具体的なイメージに落とし込めれば、意識が変わってくる。SDGsはそういう面では良い題材である。先ほどのエネルギーの問題も、自分たちの生活や将来にどのように影響してくるのかつながると学習成果にも結び付くと思う。まずはきちんとしたデータを取ることが大切。例えば白馬村で家計調査をして、年間で何にいくらぐらいお金を使っているのか、使ったお金の行先は村内なのか、県内なのか、県外なのかと計算すると、より具体的に見ることが出来るようになる。断熱効果対策を行ったことがどのように経済に影響しているか把握できるようになる。

廣田高校教育指導係長 学校全体と地域がうまく結びついていることで、PBLの学びが効果的に行われていることが分かる。コンソーシアムの構成が独特で、個人との結びつきだったり団体との結びつきだったりしているが、その仲間感が素晴らしい。PBLを行うにあたって、学校の押付けだと生徒が乗らない。どのように生徒をやる気にさせているのか。

浅井教諭 いい意味での割切り感が必要だと考えている。授業の時は生徒の半分ぐらいは興味が薄いと思って話しているが、そこで数人目を輝かせる者もいるので、そこをターゲットにしながらか、授業プラスオプションで楽しいことが出来るということを他の生徒にも見せていく。自分が活動すると仲間が増えていき、活動が楽しくなってくる。そうすると授業にも意欲的に取り組むようになってくる。そんな生徒の姿を他の生徒が見ると、自分でも何かやってみたいという気持ちになってくる。

廣田高校教育指導係長 県内で探究を行っている若い先生たちは、そこでつまずいていると思う。うまく生徒たちを外に出して自走させていく。そういう生徒になかなか育てられない。学校内の他の先生たちの協力や体制はどのような状況か。

浅井教諭 総合学習は学年で行っているのだから、学年の授業を担当している先生は自分の授業でも何かやらなくてはという雰囲気生まれている。最初は一緒にやるように周りにアプローチをしていたが、自然にそのような雰囲気が先生たちの間に生まれてきている。

白戸委員長 このような事業は誰かが突出してやらないとなかなか進まない。外部から白馬高校を

見ていて、役割分担で行っていくという雰囲気があり、それが大事だと思う。それは日頃の教職員のコミュニケーションや管理職のアプローチの成果だと思う。また様々な子どもたちがいる中で、全員に平等に行うことは大変である。だから学校の外に出ることが大切であり、地域のいろいろな人たちが子供たちに関われば関わるほど、生徒がどこかにひっかかる可能性が高くなる。外に出た時に人との出会いがあることが大きい。学校では目立たない子が地域の人と出会うことで成長するということがすごく沢山ある。学校の仕組みと、生徒を受け入れる地域の力がうまくいっている。高校が活動していく中で、地域も変わってきていると思う。

浅井教諭 地域とのつながりが出来たことで安心感が生まれ、生徒を思い切って外に出せるようになった。

廣田高校教育指導係長 他の学校は先にどのようなメンバーをコンソーシアムにしようと考えてしまいが、それではダメ。個人であっても学校であっても、どういう企業であってもお店であっても、まずは学校から外へ出ていき、そこで作られたつながりがコンソーシアムに結びつくという視点が大事である。この点は他の学校が見習うべきところ。

浅井教諭 継続性が担保できないところが少し苦しいところでもある。

白戸委員長 突出する人が必要だが、周りのサポートが無いと続かない。また生徒目線でつながっていく相手を選ぶことが大事である。

(3) 議題② 「各取組みに対する評価の方法について」

浅井教諭 昨年度末に生徒の自己評価表を作成したので、今年度はそこから生徒にどのような変化があったか見ていきたい。自己評価表では「主体性」「協働性」「社会性」「探究性」「キャリアデザイン」「キャリアビジョン」の5つの大項目をあげた。この質問項目は、昨年度先生たちから生徒にどのような力を身に付けさせたいか挙げてもらい、それを基に作成した。調査票自体にはまだ改善の余地はあるが、少しではあるが生徒の動向を見ることが出来た。調査は5月に1回目を行い、1月に2回目を行う予定。その変化を見ていきたい。

「研究開発の目標に関する評価」の目標1「地域をフィールドにした教科横断型の学びとPBLができるカリキュラムを確立することで、地域課題に当事者意識を持って課題解決ができる生徒を育成する」の部分は、今年度は学校外での活動もできそうなので、評価の結果にもその部分は現れてくると思う。「社会性」の項目にある「地域への関心を高める」の数字が5月の調査と1月の調査でどのように変化するか、また昨年度末と比べてどのようになるか見てみたい。またそのような取組を熱心に行う生徒とそうでない生徒の比較もしてみたい。このように数値の状況を見て分析を行うことが出来るものもあるが、自己評価だけで全てを見ることはできないので、特徴的な活動を行っている子については個別に聞いていくしかないと思う。

目標2「生徒と地域の人とともにSDGsについて学び、実践する場「白馬SDGsラボ」を創設し、生徒が自ら考え行動する力を育成することで、地域の人々が白馬の地域課題への関心を高める」に関しては、生徒との学びによって地域がどのように変わっていくかという点を見ていきたい。毎回ではないがSDGsラボの勉強会に参加者した人にアンケートを行っているので、それを分析して、地域の人々がどのように変わっていったか変化を見たい。

目標3「地域をフィールドにした学習を一層推進するためにコンソーシアムを設置し、生徒が地域の人と関わったり地域について学んだりすることで、生徒の白馬村・小谷村地域に対する愛着心を育む」に関しては、この地域への愛着が高くなれば、将来的に生徒がこの地域に戻ってく

ると想定している。「自分が生活する地域や社会に対して興味や関心がある」の項目で見ることが出来ると考えている。

生徒の自己評価表と合わせて、教員への聞き取り調査も行っていきたい。ここ数年で地域との関わりを深く持つようになったので、それで先生たちにどういふ変化があったかを調査する。また地域の人への聞き取りも行う。高校生と深く関わってくれた方に対して、高校生と関わっていく中で自分自身にどのような変化があったか聞き取りを行う。評価に関してはこのような観点で取組んでいく。

伊藤委員 現在高校生と関わっている人は、実際には元々白馬にいた地域の住民ではなく外部からやってきた人が多い。高校生になると地域の住民とは関わりたくないのではないかと。そういう人たちと関わることを望んでいるのか。

また何かやりたいという生徒に対して選択肢は沢山あったほうが良いと思うので、役場が行っているような取組などいくつかリストアップして生徒に提示したりするのもいいのではないかと。

浅井教諭 役場が行うような取組は、実際の授業で扱っていくと授業との相性はいいので、社会や環境の授業で少しずつ取り入れていきたい。

柴田委員 もっとどっぷり地域とつながったほうが良いのではないかと。地区の総会で白馬高校との協働という事業を計画に入れたので、何かしら連携できればと思っている。

白戸委員長 いきなり地域を調査するとか課題解決をするとなるとちょっと大変になるが、地域の人と高校生と一緒に学ぶというのは1つのやり方だと思う。いきなり高校生を地域に呼んで、「何かやりましょう」と言ってもなかなかすぐにはできない。例えば、地域の人に関心あることと高校生が学びたいことを合わせて一緒に学習会などを行い、そこでいろいろな話をするとうちと何か繋がったり始まったりするのではないかと。学びを共有するというところを行う方が学校も地域もやり易いのではないかと。

浅井教諭 何回か行き来して、一緒に学習会を行うような形が現実的な形だと思う。2～3回地域に行き来することで、お互いの関係性もできるのではないかと。それをきっかけに、そこにどっぷりはまる子が出てくれば、課題解決にもつながっていくのではないかと。

白戸委員長 地域にとってもそれは良いことで、高校生が地域に入っていくと、「課題は何ですか」と聞いても、地域の人もいきなりは出てこない。高校生と話しているうちに地域の人たちも自分たちで課題に気が付くということがあって、高校生はすごくいいアプローチになる。気候マーチも、もともとは雪が好きだという高校生の気持ちから始まっている。それは地域の人たちにとってもすごくわかりやすいアプローチであった。「地球の環境問題」から入るより、「雪が降らない」というところからの方が地域の人にとっても入りやすい。高校生と一緒に学ぶという事は地域にとってもプラスになることだと思う。

関校長 本校では環境の授業がある。例えば地元の里山の風景であったり、棚田を見たり、希少生物の観察・採集など、観光とは違うテーマでも地域との関係を作りたい。現在の地域とのつながりをもう少し細かく項目分けして、さらに具体的な所につながりが持てるような仕組みを作りたい。

柳田カリキュラム開発等専門家 これまでは地域から様々なボランティアの要請があったが、コロナの関係でそれがストップしてしまった。音楽フェスを企画している生徒も1年生の時にボランティアをやっていた。ボランティアで知り合った地域の人々の影響によって生徒も変わっている。

また白馬の特色として、ローカルな情報がすぐに地域に伝わる。高校生がどのような活動をおこなっているかすぐに地域に伝わる。地元の中学生で海外留学をしたいと考えていた生徒が白馬高校を希望して入学してきた。他の高校だと勉強ばかりで自分の時間が無いが、白馬高校に来ると自分のやりたいことが出来る気がすると話していた。このように、地元の中学生の白馬高校に対するイメージが変わってきているように思う。中学校で学んでいることにつながるものが白馬高校での学びにはあり、学習の継続性という良い流れがあるように思う。

伊藤委員 卒業した生徒でもまだ白馬で活動を行う子もいる。卒業しても白馬とつながっていてもらいたいし、そのような子が活躍できる場を作ってあげて欲しい。

浅井教諭 音楽フェスを企画している生徒は8月に開催する計画だが、その卒業生にも声をかけているとのことである。

白戸委員長 今の話を評価の話につなげると、評価の指標を作っていくうえで卒業生に対する追跡調査も必要ではないかと思う。学校教育は1・2年でどうかなるものではない。すぐに結果が出るものではないので、長期を見越した評価システムは必要だと思う。地域との関わりをもった教育を継続的に行っていくに当たっては、それによって高校としての教育の質を満たしているというエビデンスを持つ必要がある。

関校長 その点はこの事業だけに係わらず、学校が教育活動を行っていくうえで必要なことであると考えている。現在本校で行っているような評価の観点以外に、一般的に活動したことに対して内面的なことであるとか、体験で身についたことなどを測れるものはあるのか。

白戸委員長 評価は定性的評価と定量的評価とあって、定量的評価とはここで行われているようなもので、数字がどのように変わったのかを見ていくもの。項目としてはこれぐらいでいいのではないか。定性的評価はヒアリングをして自由に話させてそれを記録にとっておくもの。それがすぐに評価に結びつくわけではないが、5年10年と行っていくと、そこからいろいろなものが見えてくる可能性がある。評価は言われるほど簡単ではないし本当の事を言わないこともあるので、評価にあまり左右されてはいけないが、きちんと記録は取っておく必要はある。

廣田高校教育指導係長 事業の評価もしなければいけないが、生徒の評価もしなければならない。仮説2・3に関してはルーブリックに示さないといけないのではないかと。SDGsを中心とした学習やコンソーシアムの設置に関して、どういう姿を目指しているか目標を定め、それに対するルーブリックを作り、どこまで到達したかを聞き取りしていくことが必要だと思う。生徒や関わった人たちの満足度だけだときちんとした評価にならない。たとえば中学生にどのような変化が出てきたかについてあらかじめルーブリックを定めて白馬中学校の先生に調査してもらおうとか、卒業生に対して白馬高校にいた時に始めた取組をさらに続けている人の割合を調査するなど、具体的なものを考えて評価していくと良いと思う。

白戸委員長 評価は本来目標が無いと出来ないもの。日本の評価はどこがダメだったかを見るものになっているが、本来の評価はそれをいかに次に生かすかというものに使われる。余計なことやって失敗するぐらいなら何もやらないという姿勢だと評価をする意味がない。失敗してもチャレンジすることを評価する、そこから次どうするかを考えるのが本来の評価のあり方。SDGsであれば、何を狙って、どのようなことをして、どこが足りなくて、何が原因かという評価も必要である。

(4) 閉会行事

令和3年度 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」
長野県白馬高等学校第2回運営指導委員会 議事録

1 日時 令和4年2月14日(月) 13:30~15:00

2 場所 オンライン

3 出席者 (敬称略)

運営指導委員

委員長 白戸 洋 (松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)

委員 伊藤 まゆみ

岸 清美 (白馬ロータリークラブ学校教育支援委員会委員長)

柴田 友造 (白馬山麓事務組合 事務局長補佐)

指定校

関 正浩 (白馬高等学校長)

井出 敦 (白馬高等学校教頭)

浅井 勝巳 (研究開発主任)

柳田 優 (カリキュラム開発等専門家)

管理機関

廣田 昌彦 (長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課

教育幹兼高校教育指導係長)

有賀 浩 (長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課 主幹指導主事)

ほか

4 内容

(1) 開会行事

- ① 学びの改革支援課教育幹兼高校教育指導係長あいさつ
- ② 白馬高等学校長挨拶
- ③ 出席者紹介
- ④ 委員長挨拶

(2) 議題① 「今年度の事業報告について」

浅井教諭 本研究は3つの内容で行っており、その仮説がどうであったかアンケート結果に基づいて説明する。今回の事業に伴う活動を通して、学校から地域にどんどん出て活動していくような生徒が出て欲しいという思いがあった。そして地域の中で生徒が何か活動する際の受け皿として、白馬SDGsラボであったり、地域の有志の方の団体のところであったり、生徒が安心して活動できる場所をつくる。そして生徒が高校を卒業した後、大学や専門学校に進学したり就職した後も、できることならばまた白馬に帰ってきて欲しい、たとえ白馬に帰って来なくても関係人口として白馬と関わるような人たちになり、そこでまた未来の生徒と一緒に活動を行うような地域人材の育成・還流をはかるシステムの構築を目標としている。地域を題材にした授業を行う中で、関わりを持った企業やコンソーシアムの大人の姿を見て、生徒がこんな大人になりたいと思ってくれるような活動になることを心掛けた。

仮説1では、「チームビルディング→教科学習→PBL」のサイクルを構築することで、当事者意

識と課題解決に向けた意欲と課題解決力が高まる、仮説2では、SDGs ラボ等で地域の未来を考えていく、仮説3では、白馬・小谷地域に対する愛着が高まる、という仮説を立てて計画を行った。

それぞれの仮説についての検証をアンケート結果からみていく。まず仮説1については、白馬高校はもともと特色的な授業を行っており、既存のプログラムを再編成した。教科学習では、国際色豊かな白馬の特徴を生かし、英語による観光案内や海外高校とのオンライン交流などを行った。それ以外にも、以前から取り組んでいる環境に係る授業を行った。PBL では、テーマを設定して行った高校生ホテルや、生徒が各自でテーマ設定から取り組む探究学習を行った。アンケート結果を検証すると、「地域の課題解決方法について考える」という項目については、肯定的な意見が2年前は6割程度であり、それを今年度も維持しているため、従来からの白馬高校の強みであるということがわかった。一方、「日本や世界の課題の解決方法について考える」という項目は、2年前は47.2%であったが今年度は56.3%に上がっておりSDGs などについて授業で取り扱った結果、地域→日本→世界と生徒の視野を広げることにつながったと考えられる。また、「目標や当事者意識を持って挑戦する人がいる」という項目は、2年前から8割を超えており、従来からの強みであることがわかった。一方、「挑戦する人に対して応援する雰囲気がある」という項目については、もともと79.2%と高い数値であったが、今年度は91.3%まで上がり、気候変動マーチや教室断熱化プロジェクトを行った生徒たちもそうだったが、いろいろな活動に対して傍観するのではなく一緒に行ったりする雰囲気が出てきた。

仮説2については、興味を持った生徒が学校から地域へと飛び出し、地域の有志の人たちと一緒に活動を行うということがこの3年間で多く見られ、この地域の持つ教育力の高さを改めて実感した。生徒は「楽しい」や「面白い」が原動力となって活動を行っており、強制されるわけではなく主体的に活動するようになっている。「地域の人や課題に直に触れる機会がある」という項目は2年前から約7割となっており、従来からの強みであることがわかった。一方、「将来国や地域の担い手として積極的に政策決定に関わりたい」と考える生徒が45%おり、他の地域の高校生と比べると少し高くなっている。地域での活動が学校の中に還元されており、気候変動やSDGs に地域で取り組む機運が高まっている。

仮説3については、コンソーシアムに限らず地域での様々な活動を行っており、特にSDGsに係る取組については各所から案内が来て一緒に行った。「地域から大切にされている雰囲気を感じる」「興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる」という項目についてはともに2年前から7割以上の回答があり、従来からの強みであり、地域の人との関わりの多さを生徒も実感している。また「ありのままの自分が尊重される雰囲気がある」という項目について生徒の回答は、2年前は64%であったものが今年度は80.2%まで上がった。また同じ項目で大人の回答は、2年前は50%であったものが今年度は77.8%まで上がり、生徒も含めた多様な人たちとの関わりから個性が認められているのではないかと考えられる。以上が今年度の活動報告である。

岸委員 全国募集するにあたって、学校や先生方の熱量やエネルギーを中学生やその保護者にぜひ伝えてほしい。高校3年間は人生の中で最も多感な時期である。中学校までは部活やスポーツクラブでの活動で社会との関わりを持つ場合もあるが、高校に入って初めて社会との直接的な接点を持つことが多い。そこがそれからの人生において非常に大きいターニングポイントである。そこで3年間過ごすことで、自らの進むべき大学を考えたり就職を考えたりするので、実は高校3年間はとても重要な時期である。

また中学生や保護者、または社会や世の中が何を求めているか、どんな方向に動いているのかということ进行分析することは、生徒募集していく上で非常に重要であると思う。社会の動きを分析するという意味で、今はコロナということもあり、ホスピタリティの学びを白馬高校では学ぶことができると思っている。観光ばかりだとそれに興味がない生徒や保護者は他の高校に行ってしまう。国際観光を通じてホスピタリティを学ぶとしたら、全てのサービスや仕事、企業につながってくるので、それを学ぶ場であるとアピールして欲しい。

伊藤委員 今後、世界と渡り合っていくときに大切なのは、その地の独自性、地域性だと思う。脈々と培ってきたものをどうやって繋げていき、オンリーワンになっていくかということがこれから世界と渡り合っていくには大切だと思う。高度成長期には、白馬だけでなく日本全体が新しいものに飛びつき、古いものをどんどん捨てていく社会であったような気がする。グローバル化がどんどん進んでいく中で、これで本当にいいのかということに若い人も含めて気付き始めていると思う。できれば新しいものより、むしろここに今まであった、この地独特のものも取り入れて欲しいと思う。報告の中では地域の人というが、わりと居住歴が短い方が多いという印象がある。かつて行われていたことやオリンピックも含めて、村のお宝として受け継いで、何を残していかなければいけないかということを経験生にも考えてもらいたい。

SDG s に関しては、白馬高校の断熱化プロジェクトに刺激を受けて上田でも取り組んだという新聞記事があったが、このような形で派生していくことはとてもいいことだと思う。どんなエネルギーを使うかも大事だが、エネルギーを使わないということも大事なので、1年に1教室ずつでもこれからも取り組んでももらいたい。

柴田委員 地域とのつながりがポイントだと思う。地域の人にも高校生に期待したいという部分もあると思うが、小・中・高と同じようなテーマで何か取り組めるようなことがあって、例えば小谷村の中の限界集落に入って今後のことを考えていくのも1つかと思う。小谷村では来年度から実際に外部の人と地域との交流を図る制度を本格的に進めようと考えている。学校の先生は普段の授業で大変だと思うので、地域の人をいかに使うかということがポイントだと思う。

白戸委員長 ここ数年間で白馬高校の学びの仕組みがかなり整ってきたのは、この事業による取組のおかげだと思う。2点ほど感じていることをお話しする。まずはSDG s に関してだが、ここに含まれている項目は確かに大事ではあるが、SDG s に関していろいろ取り組んでいくことが目的ではなくて、それを通してどのような地域や社会をつくっていくのかという視点が無いと本当の意味でのSDG s にならないのではないかと考えている。大きな世界でもそうだが、自分の足元にある小さな地域であっても同じように実現されていくことが大事で、そういう視点をどのように教育の中で培っていくかが課題である。

2点目は、地域という言葉の中でコミュニティには2種類ある。1つはテーマ型コミュニティと言って、環境や防災といったある一定の同じような価値観を持つ人たちが集まる集団と、もう1つは一緒に住んでいるという地縁型コミュニティである。これらが縦糸と横糸のようにつながっていると地域として発展していく。白馬高校では今後は地縁型コミュニティとの関わりが重要になってくるのではないかと考える。白馬村自体が観光やスキーリゾートのようなビジネスの部分と、地域の昔からの集落の部分が、お互いに共有する白馬村の将来の目標を持つことが必要だと思う。気候変動マーチなどの活動で白馬高校の生徒と地域の人との関わりを見ていると、元々いた人たちと外から来た人たちをつないでいくということを経験生とか若者だとやりやすいように

思う。しがらみもなく、若者が行うことには寛容であるため、高校生がそれらの人たちのつなぎ役になっていくことが大事であると思う。

また地域課題を捉えていくときに、その地域の課題を1つ1つ見つけていくことが大事である。生徒側から課題を持って地域に入っていくとそれが課題となるが、実際に地域に入っていくと、そこで本当に課題になっていることは何かを捉えていく能力を養っていかなければならない。すぐにできることではないので今後の地道な取組によると思う。

(2) 議題② 「事業終了後の取組について」

浅井教諭 もともとあった課題ではあるが、これまでの活動を通してそれがより顕著になった。1つ目は、外部とのやり取りの中、地域の時間と学校の時間がなかなか合わないこと。2つ目は、職員は異動もあるので地域の現状を理解するには時間がかかること。3つ目は、先ほどの地域の在り方にも関わるが、学びをどのようにプログラムにするかということ。この3つを課題として考えている。

来年度に向けて、地域の時間と学校の時間を合わせるのはやはりなかなか大変で、それであれば、学校の授業では興味関心を高めたり、調べたり、まとめたりというところに注力をして、学校外に飛び出したい生徒を育成し、生徒は課外活動の時間帯で地域の活動に取り組むようになっていけばいいのではないかと考えている。生徒が地域で興味を持ったものを教員がうまく拾いあげ、それを授業の中に取り入れていく。このような形で学校と地域を行ったり来たりできないかと考えている。先ほど指摘を受けた地域の方との接点に偏りがあるという点は同じように感じている。来年から学習指導要領が変わり、学校設定科目として「北アルプス学」という科目ができるので、この中に地域を知るという項目を入れる予定である。内容としては、地域の方の話を聴いたり体験活動を行ったりして、その後に現在もボランティアやイベントの運営サポートなどの依頼がいろいろと来ているので、そういうところに生徒が課外活動として出ていく。それに加え、授業ではもう少し白馬についての学習をしていくという内容で検討している。

2つ目の職員が地域の現状を理解するのに時間がかかるというところはなかなか難しいが、地域との関わりが多様にある中で、学校の活動に興味をもってくれる地域のキーパーソンとなる方が何名もいる。そういう方が教科だったり分掌だったり教員個人だったり、場合によっては生徒とつながりがある地域の人もいるので、そういった人がどんどん学校の中に入ってきやすいような仕組みとして、例えば地域連携担当教員だったり、コーディネーターとして学校に入り、地域との関わりを担ってもらえたらと考えている。

3つ目の学びのプログラムの部分は、生徒は学校外での活動にはとても興味・関心を持つ。その興味関心をその先にある学びの知識やスキルや技術の習得につなげる。興味関心と知識技能の両方が大切であると今回の事業で感じた。12月に糸魚川高校が白馬に来て、一緒にワークショップを行ったりフォーラムに参加したりした。また糸魚川高校の発表会にも一部の生徒が参加した。その中で強く感じたことが、探究学習の入り口として、白馬高校のように生徒の興味関心を高めるために一生懸命にいろいろと行っている、学校側が生徒の興味を高めるために一生懸命やっているところ、糸魚川高校のようにスキル・知識の習得をベースにして、情報収集とか分析・思考とかを中心に行っているところもあり、この2つを行き来できるようなプログラムを作っていけないかと考えている。来年度から新学習指導要領になるにあたって、今回の事業を通して白馬高校の学びが整理されたので、それをもとに普通科でも国際観光科でも白馬高校では観光、地域

資源、自然環境、グローバル、教養の領域について人や企業・団体とのつながりの中でそれぞれを学んでいくという新しいカリキュラムを作っている。科によって学ぶ領域は少し異なるが、生徒は白馬高校の学びのフィールドを使って、白馬地域、北アルプス地域について知り、この地域について生徒が他の人に熱く語れるようなレベルになることを目指す。その上でさらに「知る」所から地域の課題について「考える」主体的に行動できる所を目指す。ただし課題を解決するといっても、マイナスの状態にあるものをゼロに戻す、もしくはちょっとプラスにするということが課題解決だと思うが、さらにその先にある「提案する」、ゼロの状態からプラスの状態にする、付加価値を作ることができるカリキュラムにしていきたい。大きな目標ではあるが、「知る」「考える」「提案する」というプログラムが出来ればと考えている。

国際観光科は進学する生徒が多いので、観光の教科の定義を少し作り直す。観光学は一般的に3つの領域が交わり合っていると言われるので、「観光文化・教養」「観光経営」「観光地域づくり」の3領域を学習することで進学にも対応でき、さらに大学等で学んだあと、地元やその他の地域で活躍してもらいたいということを生徒に示したいと思っている。それができれば、カリキュラムでは白馬のことについて相当扱うので、いずれ白馬に戻って活動することにつながるのではと考えている。

岸委員 地元の白馬中からの進学希望者が増えているということは、この取組がうまくいっている証拠ではないかと思う。地元との関わりは最重要課題であると思う。地元のことを考えるということも重要であると思うが、他地域から来る生徒にどのようなことが提供できるかということについても、もう少し深掘りする必要があると思う。

伊藤委員 先生方が地域の現状を知るために時間がかかると言っていたが、役場に課題などを聞いてもらおうと早いのではないかと思う。そこから学校ができることを拾っていった方が効率的に行えると思う。

持続可能とはどのような状態のことなのか。色々あると思うが、個人的には子供達が戻ってきて後を継いでくれると言うことが持続可能だと思う。そういう形になっていないのはなぜか。そこを考えていくにあたって持続可能の定義をまず生徒には考えてもらいたい。

また国際観光科の学習内容で触れていたが、ここで示された内容以外にもデータ取得や分析も必要だと思う。白馬村ではこれらを全てアウトソーシングで行っている。そういうことも白馬村の中で行っていくという体制を作るきっかけを高校生が活動の中で見せてもらえるといいと思った。

柴田委員 「知る」「考える」「提案する」という学習の流れはとてもいいと思う。出来れば私の住んでいる集落の中谷地域に的を絞って、地域の住民と一緒に提案をいただけるようなことはどうか。なぜこのようなことを言っているかというと、平成25年にその地域は人口流出等で限界集落になり、自力で課題を抽出し対応策を考えた。翌年の地震の時には自治防災組織が確立しており、速やかに避難できた。それから10年たち、また人も減っていき、新たな課題をこれから見つけていかななくてはならない。そうしないと地域が衰退してしまい、地域が死んでしまう。そのような地域に子供の視点を是非いただきたいと思っている。

また、国際観光科に県外の生徒が来るのもいいが、3年間という限られた期間である。3年間でどれだけ地域に思いを馳せてくれるかというのは分からない。まだ国際観光科の卒業生が大学を卒業したわけではないので、実際にどのようなようになるか分からないが、以前小谷村で行っていた

山村留学に来ていた子どもたちの、その後のこの地域に対する思いを見ると、3年間だけでなく、小・中から続く道を探る必要があるのではないかと思う。

白戸委員長 発表の中で知識を持つということをやっていたが、それはとても必要なことだと思う。例えば地域を維持するためにはどのくらい人口を増やせばいいかという目標値を考えないで行っているところがある。人口の1%を毎年取り戻せばいいというシュミレーションがあり、白馬だと85人になる。ある程度きちんとした数字的なことも含めて考えていかなければいけないので、知識という点を大切にすることがある。その一方で、肌感覚で地域を感じることもとても大事だと思う。3年間付き合うとすれば、いいことばかりではなく嫌なこともあるし、上手くいかないこともあるし、怒られることもあるし、失敗することもある。でもそれが大事だと思う。地域のいいところだけを見るのではなく、地域のダメなところだとか古い体質だとか、そういうところも含めて地域を丸ごと感じてもらい、その上でどうするかを考える。肌でその感覚を得るためには、時間をかけてある一定期間、回数は多くなくてもいいので継続的に地域に常に触れられる。白馬であれば割とそれができるのではないかと思う。

浅井教諭 皆さんからご指摘いただいた点は以前から同じようなことを言われている。来年度から新しい授業も始まっていくので、これを機に取り組んでいきたい。地域経済循環については白馬村でも行っていたので、肌感覚で人とのつながりの所と、知識に裏付けられた活動を組み合わせで行っていきたい。また白馬がもつ昔ながらの部分と新しい革新の部分を組み合わせた活動ができるかと以前から感じていたが、その思いがより強くなった。

(3) 閉会行事

Ⅷ コンソーシアム

令和3年度 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」

長野県白馬高等学校第一回コンソーシアム担当者会議事録（概要）

- 1 日時 令和4年（2022年）2月14日（月）15時30分～17時00分
- 2 形態 ZOOMによるオンライン会議
- 3 参加者（敬称略）

- ・渡邊 宏： 白馬村
- ・上川喜一： 小谷村
- ・廣田昌彦： 県教委
- ・有賀 浩： 県教委
- ・荒井英治郎： 信州大学教職支援センター
- ・白戸 洋： 松本大学総合経営学部
- ・太田 悟： （株）岩岳リゾート
- ・内海二郎： ホテルシェラリゾート白馬
- ・吉野良平： 白馬東急ホテル
- ・草本朋子： 白馬インターナショナルスクール設立準備財団

※以上、コンソーシアムメンバー

- ・白馬高等学校：関 正浩（校長）
井出 敦（教頭）
浅井勝巳（教諭、本事業担当）
柳田 優（カリキュラム開発等専門家）



- 4 内容 司会：井出敦教頭

(1) 長野県教育委員会あいさつ（廣田昌彦）

・・・ここ数年間で県内において存在感のある学校になった。白馬高校の探究的な取り組みと地域と協働する姿は今や県内の高校をリードするような深まりと広がりを見せてきている・・・成果を維持し継承するだけにとどまらず、変わり続けている姿で長野県の高校教育にインパクトを与え続けてほしい・・・

(2) 白馬高等学校校長あいさつ（関正浩） ※学校現況報告含む

・・・コンソーシアムという枠組みがこれほど機能をして実際の教育活動に役立っているのは嬉しい限りであり、感謝申し上げます。皆様のご協力を賜り、今年度は高校生ホテルを2つの旅館に分散する形で実施することができた。お客様を実際におもてなしする機会を体験し、多くを学ばせていただきました。白馬フォーラム、糸魚川高校との交流学习の際には、コンソーシアムの皆様にも教室に入っただき、生徒に対して貴重なご助言をいただき、それぞれのお考えを伺った。生徒たちはこのような機会を与えていただいたことに感謝している。

本事業を3年間継続し、生徒がどのように変わってきたか、高校魅力化評価システムの結果でその一面を紹介する。①学習環境については、皆様のような地域の人とのつながり、情報、学びの場といった学びやすい環境が整ってきたと回答する割合が増加。②資質・能力の発揮については、自ら考え、学ぼうという生徒の割合が増加。③生徒の自己認識については、主体性、協働性、探究性それぞれの項目で肯定的な回答の割合が増加している。

3年生の進路状況は、大学進学率が4割を占め、探究的な学びの積み重ねや、特色ある教育活動を活かした総合型選抜によるものが多くなっており、公立大学へも進学している。

教育活動を一層充実させるために、来年度より「学びコーディネーター」を専属配置し、今まで以上に皆様のニーズ、意見を集約し、校内担当者につなぎ、より効果的に学びを進められるような仕組みづくりを構築したい。

文科省事業としては本年度で終了となるが、この枠組みを永続的に残していただいて、今までにも増して皆様のお力をお借りしたい・・・

(3) 自己紹介 (略)

(4) 今年度の取り組み状況報告・3年間のまとめ

〈浅井教諭〉

- コンソーシアムのみなさんには、企業や団体として生徒の探究活動に関わっていただいた。特にSDGsラボのみなさんには、生徒にとって頼れる大人という存在で接していただいた。生徒が卒業した後もこの地域との関わりを持ってもらいたいと思っており、そこに在校生が絡むとさらにより関係性が継続できると考える。
- 高校生ホテルについては、2、3年生で計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3年生は本実習が中止になったが、準備段階では本物に触れに学ぶことができた。2年生については準備までの期間が短く、できることに限界があったが、皆様のご協力で本実習を無事終了することができた。あらためて感謝します。
- 観光コミュニケーション英語では、今年度4月にスノーモンキーガイドツアー実習、11月に松本城ガイドツアー実習が実施できた。
- 学年登山はできなかったが事前の予備登山で、少しではあるが地域の自然に触れる体験学習ができた。
- 観光施設見学では、岩岳リゾートやスノーピークのグランピング施設の見学をさせてもらった。教室よりも現地で実際に見て聞くことが大切で、生徒たちに響くものが違った。
- 生徒が考え出した「地域応援 SKY フェス」は、資金集めから運営まで全て行うという企画をおこなった。生徒だけでは限界がある中で、岩岳リゾート様が全面的に協力してくださり、大雨の中の片付けなどまで多人数で手伝っていただくなど、無事実施することができた。
- デュアル実習でも多くの企業様にお世話になった。
- 来年度からの新カリキュラムは、普通科・国際観光科がともに、自然環境・観光・地域資源・教養・グローバルについて、人とのつながりや皆様方のような企業・団体とのつながりを通して学びが展開できるように作った。
- 1年で「知る」＝白馬を熱く語れる、2年で「考える」＝地域課題解決に主体的に行動できる、3年で「提案する」＝地域に向けて新たな付加価値を創発できる、という流れにしている。
- 観光学科としては、観光の3つの領域（観光文化・観光経営・観光地域づくり）を扱う。
- 北アルプス学（本校のオリジナルな科目）や総合的探究の時間では、地域で活躍されている白馬に魅せられた方のお話を伺い、関連するボランティア活動やプロジェクトの紹介をしていたら、興味関心に応じて自分事として関わっていけるような工夫をする。
- 「興味関心や好奇心」と「知識やスキル」をバランスよく身につけさせたい。

(5) 事業終了後の実施可能な取り組みについて提案・意見交換

〈井出教頭〉

- それぞれのお立場から、本校の教育活動に対して今後どのようにご協力いただけるのか、また情報発信の手法などについてご提案があればお願いしたい。

〈渡邊宏〉

- デュアル実習では生涯学習スポーツ課でやるイベントの手伝いをやってもらっている。
- SDGsラボの活動で、生徒と地元とを繋げたい。
- 公民館講座で小中学生とは一緒にやっているが、地域学習の一環として、今後白馬高生とも何らかの形で連携したい。
- 情報発信については、以前から良い取り組みを行っているのもったいないと思っていた。生徒主体でやっていければいい。どこに発信すれば見てもらえるかの検討や定期的に白馬高校がどんな取り組みをしているかを把握する必要がある。

〈内海二郎〉

- デュアル実習ではホテルの現場が実際どうなっているのかを体験してもらうことが主な目的。

- 。レストランサービスや客室清掃，施設管理をやってもらっているが，今後は踏み込んでマーケティングや経営，営業活動の体験についても提案していきたい。そこまでできないかもしれないが，企画会議も実施したいと考えている。
- 情報発信については我々も勉強しながら一緒に考えたい。

〈吉野良平〉

- 生徒自らが白馬の魅力を熱く語れるという点に共感している。カリキュラムについてはみんなで一斉に受ける授業ではなく，大学のように自分の興味で選べるのがいい。
- 白馬を知るには他所と比較すればよい。例えばニセコや野沢温泉，軽井沢と比較するなど。
- SDGs や環境問題は，今やお客様がホテルを選択するうえでの大きな要素になっている。
- 高校との連携はサービス業務などの実践は少なくし，ホテルを通して白馬の観光を感じるとか，お客様が白馬をどう見ているのかを学ぶのもよいのではないかな。
- 情報発信は高校生の方がすごい。SNSなどで海外とでも自然に仲間を作っていける。

〈草本朋子〉

- SDGs ラボは三人組のあと2年生の二人を中心に動いているが，昨年のような勢いが無い印象。
- マイボトルプロジェクトは，水がおいしい白馬でペットボトルを使わないウォーターサーバーで水を飲むカルチャーを広めようと，学習院大学の協力を得て取り組んでいる。学校から地域のスキー場などへ広めようとしている。
- 発信力が弱いのが残念だが，1年女子にYouTubeチャンネルに興味のある人がいるので，SNSをなんとか利用できないかと思う。
- 9月にインターナショナルスクールが開校する。白馬高校とプロジェクトで一緒するとか英語を使った活動などで協働したい。

〈太田悟〉

- 糸魚川高校との交流学习は，地域を広げ，県を超えたもので大変有意義だと感じた。
- 県外へ進学しても白馬の良さを発信できるような価値を企業としても追及したい。
- 10代～20代前半の向けの発信を生徒さんと一緒に取り組んで，我が社のHPとリンクして閲覧データを解析するといったマーケティング学習をしてはどうか。
- 「地域応援 SKY フェス」は最初できるかと心配したが，しっかりと予算化してイベントが実施できることを体験してもらえた。
- 情報発信に弱いという話だが，プレスリリースを数多く出してメディアを活用することがよい。

〈白戸洋〉

- 地域や高校に顔を出すことが多いが，企業や団体とこれだけの距離感で話せる白馬高校は非常に恵まれている。
- 大学は4年，高校は3年で卒業となり学校からいなくなる。「先輩がやっていたから引き続き頑張ろう」では続かない。生徒がやりたいことを長続きするような仕組み作りが高校の側に必要。
- 失敗した方が教育効果が高い。うまくいくと勘違いを起こしかねない。周囲の協力のおかげでうまくいったことを自覚させたい。人と人の関係作りは難しいが，高校生がそれを繋ぐ役割ができればいい。時間がかかるが，地道にじっくりとやるのが大切。

〈荒井英治郎〉

- コロナ禍でできなかったのはどこも同じ。本来やるべきことができなかった場合、With コロナとしてやっていけることを選択肢を考える。教育のプログラムを体系化し、何学年のどの時期に何を学ばせるかが大事。
- 情報発信は，ホームページに掲載して実際に届いているのか？年1回のすばらしい発信よりも，些細な日常生活を数多く，SNSを使用して発信する方がいい。生徒に発信させても，毎回教員がチェックすると生徒は乗ってこない。あくまで高校生が自分たちの責任で情報制限をかけて発信するというのを，明確に掲げてやるのがよい。ローカルテレビ局とルーティーンの番組を持たせてもらうのはどうか。

- 信州大学との関わりでは、オンライントークで情報共有するのも可能だし、キャンパスに来てもらってもいい。探究活動の支援を引き続きさせてもらおう。
- 白馬エリアの小中学校との関係はこのままでよいのか？ 宿題が残っているように思う。
- コンソーシアムは素晴らしいが、今後メンバーの数を増やしていくのか、このままの関係性を守っていくのかご検討を。

〈上川喜一〉

- 入学して目的を見つけられる生徒，行動を起こせる生徒，起こせない生徒など多様であるが、そうした生徒たちにスイッチを入れるタイミングがあるので、「押しつけ」ではなくさまざまな動機づけをお願いしたい。
- 情報発信は生徒が主体という点が大事だが、地元，県外，海外どこに向けて出すのか。まずは、地元の人たちに地元の子どもたちの活動を知っていただくのが重要ではないかと思う。

〈井出教頭〉

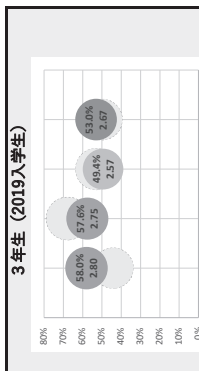
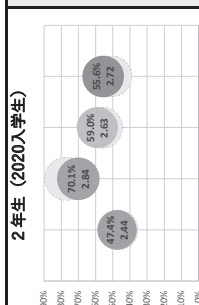
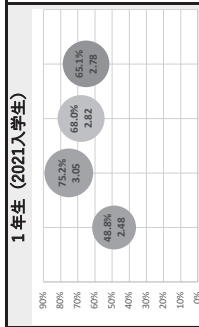
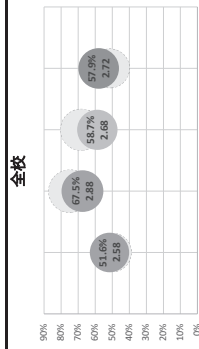
- 貴重なご意見ありがとうございます。参考になることばかりでした。
- 文科省事業としてのコンソーシアム担当者会はこれで終了となりますが、引き続きご支援をお願い致します。
- 来年度以降の会の持ち方については後日改めてご相談させていただきます。

Ⅸ 高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ

Details 詳細結果

① 学習活動 (明示的なカリキュラム)

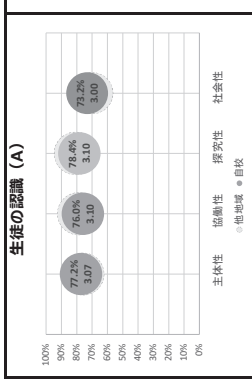
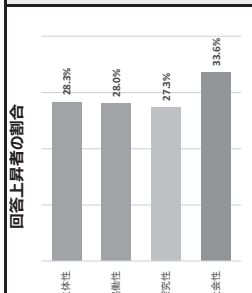
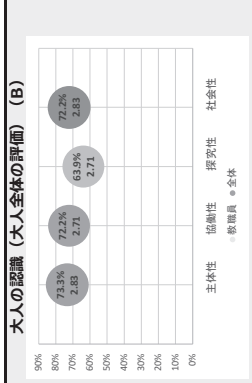
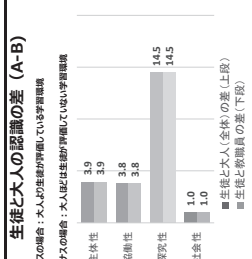
項目	全校			1年生 (2021入学生)			2年生 (2020入学生)			3年生 (2019入学生)					
	割合 (%)	差 (pt)	他地域との差	学年	割合 (%)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)	学年	割合 (%)	差 (pt)
● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少															
主体性に関わる学習活動	51.6%	3.47	1.54	48.8%	1.96	-1.16	47.4%	0.56	33.8%	58.0%	13.79	35.7%	35.7%	13.79	35.7%
5 自主的に調べものや取組を行う	62.7%	4.21	-0.86	69.8%	7.27	-0.23	53.8%	-8.65	23.5%	63.6%	11.97	35.7%	35.7%	11.97	35.7%
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	40.5%	2.74	3.93	27.9%	-3.34	-22.09	41.0%	9.78	44.1%	52.3%	15.61	35.7%	35.7%	15.61	35.7%
協働性に関わる学習活動	67.5%	-4.24	-7.36	75.2%	-1.89	-3.85	70.1%	-7.00	16.7%	57.6%	-10.20	24.6%	24.6%	-10.20	24.6%
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	76.2%	-4.94	-7.35	90.7%	1.11	0.70	76.9%	-12.66	11.8%	61.4%	-15.30	16.7%	16.7%	-15.30	16.7%
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	81.0%	1.71	-7.34	93.0%	7.61	3.02	82.1%	-3.37	11.8%	68.2%	-8.48	16.7%	16.7%	-8.48	16.7%
9 活動、学習内容について大人 (教員や地域の大人) と話し合う	45.2%	-9.48	-7.39	41.9%	-14.39	-15.28	51.3%	-4.97	26.5%	43.2%	-6.82	31.0%	31.0%	-6.82	31.0%
探究性に関わる学習活動	58.7%	1.65	-9.45	68.0%	11.77	-4.12	59.0%	2.72	25.0%	49.4%	-3.48	28.0%	28.0%	-3.48	28.0%
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	53.2%	4.75	-9.23	58.1%	10.22	-9.00	51.3%	3.37	26.5%	50.0%	6.67	33.3%	33.3%	6.67	33.3%
12 話し合った内容をまとめる	65.9%	-0.79	-10.89	76.7%	10.08	-1.83	71.8%	5.13	29.4%	50.0%	-11.67	21.4%	21.4%	-11.67	21.4%
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	57.1%	-4.49	-9.51	65.1%	10.95	0.83	56.4%	2.24	23.5%	50.0%	-10.00	26.2%	26.2%	-10.00	26.2%
社会性に関わる学習活動	58.7%	7.16	-8.16	72.1%	15.84	-6.48	56.4%	0.16	20.6%	47.7%	1.06	31.0%	31.0%	1.06	31.0%
14 地域の魅力や資源について考える	59.5%	0.40	6.54	67.4%	9.11	0.30	56.4%	-1.92	17.6%	54.5%	-3.79	26.2%	26.2%	-3.79	26.2%
15 地域の課題の解決方法について考える	57.9%	10.14	3.42	67.4%	19.53	3.16	53.8%	5.93	26.5%	52.3%	7.27	23.8%	23.8%	7.27	23.8%
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	56.3%	9.18	9.90	60.5%	14.63	-0.96	56.4%	10.58	23.5%	52.3%	5.61	28.6%	28.6%	5.61	28.6%



② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

項目	生徒の認識 (A)		大人の認識 (大人全体の評価) (B)		大人の認識 (大人全体の評価) (B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)	
	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	割合 (%)	差 (pt)	差 (pt)	差 (pt)
	全体	昨年比の差	全体	昨年比の差	全体	昨年比の差	生徒と大人 (全体)	生徒と教職員
● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少								
主体性に関わる学習環境								
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	77.2%	6.81	28.3%	1.30	73.3%	-	3.9pt	3.9pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	77.8%	7.97	26.3%	-1.08	66.7%	-	11.1pt	11.1pt
22 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	91.3%	9.51	17.1%	0.69	88.9%	-	2.4pt	2.4pt
33 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	82.5%	3.29	31.6%	2.25	88.9%	-	-6.3pt	-6.3pt
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	56.3%	1.00	31.6%	-0.07	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	69.0%	13.07	40.8%	8.25	38.9%	-	30.2pt	30.2pt
26 自分何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	86.5%	6.00	22.4%	-2.25	83.3%	-	3.2pt	3.2pt
協働性に関わる学習環境								
22 人と働くことが尊重される雰囲気がある	77.8%	8.07	28.0%	-2.79	72.2%	-	3.8pt	3.8pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	77.8%	13.63	31.6%	-1.74	72.2%	-	5.6pt	5.6pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	80.2%	11.61	26.3%	-1.60	77.8%	-	2.4pt	2.4pt
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	79.4%	-1.77	23.7%	-2.71	83.3%	-	-4.0pt	-4.0pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	66.7%	8.81	30.3%	-5.10	55.6%	-	11.1pt	11.1pt
探究性に関わる学習環境								
17 本音を言葉でお互い伝える雰囲気がある	78.4%	6.83	27.3%	-2.43	63.9%	-	14.5pt	14.5pt
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	75.4%	-0.70	25.0%	-7.73	55.6%	-	19.8pt	19.8pt
24 周りの大人は、しつこく話を聞き、考える手助けしてくれる	80.2%	2.17	28.9%	0.96	61.1%	-	19.0pt	19.0pt
31 お互いに思いやりあふれる機会がある	84.9%	16.37	28.9%	-1.67	77.8%	-	7.1pt	7.1pt
社会性に関わる学習環境								
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	73.0%	9.49	33.6%	-1.27	61.1%	-	11.9pt	11.9pt
25 興味を持って、ことに対してすぐに興味を示してくれる大人がいる	77.8%	6.71	28.9%	-4.93	88.9%	-	-11.1pt	-11.1pt
29 地域の人や課題などに積極的に関わる機会がある	74.6%	7.94	32.9%	-1.69	61.1%	-	13.5pt	13.5pt
32 自分の暮らしや地域を、外からの視点で考える機会がある	73.0%	13.27	42.1%	9.27	72.2%	-	0.8pt	0.8pt
	67.5%	1.42	30.3%	10.95	66.7%	-	0.8pt	0.8pt

※本人の自己評価は、(B)「大人用」シートで確認いただけます。



③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ○ 減少

主体性に関わる自己認識

【自己肯定感・自己有用感】

49 自分にはよいところがあると思う

50 私は、自分自身に満足している

【課題設定力】

37 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる

【行動力】

38 目標を設定し、確実に行動することができる

【粘り強さ】

51 自分で計画を立てて活動することができる

35 うまくいくからといって意欲的に取り組む

45 忍耐強く物事に取り組むことができる

協働性に関わる自己認識

【受容力】

41 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる

【対話力】

40 相手の意見を丁寧に聞くことができる

【課題力】

47 自分の考えをしっかりと相手に伝えることができる

48 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ

【共働力】

42 共同作業など、自分の力が発揮できる

探求性に関わる自己認識

【学びの意欲】

36 家で一人で、誰かに言われなくても自分から勉強する

58 地域を対象とした課題学習に熱心に取り組んでいる

64 学習を通して、自分がたいことが増えている

【情報活用能力】

43 情報や、勉強したことを関連づけて理解できる

44 勉強したものを実際に応用してみる

【批判的思考力】

39 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ

【省察力】

46 自分を客観的に理解することができる

社会性に関わる自己認識

【地域貢献意識】

62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい

53 地域をよりよくなるため、地域の問題に関わりたい

55 将来、自分の住んでいる地域に役立ちたい

【社会参画意識】

54 私に関わることで、社会状況が変えられるかもしれない

59 地域や社会での問題やできごとに関心がある

52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う

【グローバル意識】

56 地域の課題と世界での課題は関連していると思う

61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい

60 将来、自分の住んでいる地域で働きたいと思う

【持続可能意識】

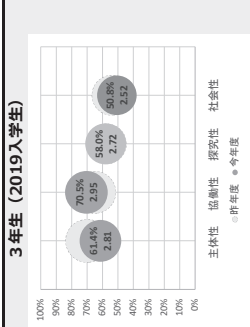
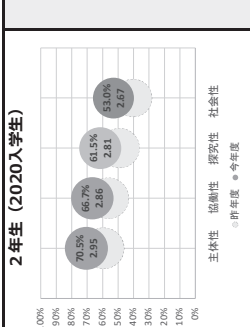
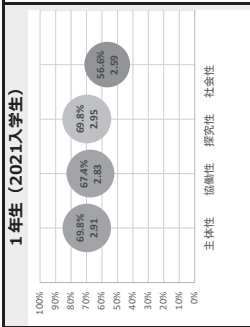
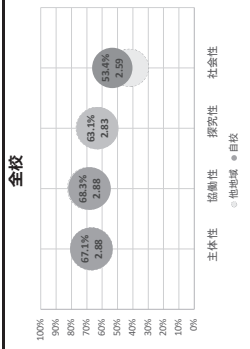
57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい

65 自分の将来について明るく希望を持っている

Table with columns for 全校 (Overall), 1年生 (2021入学生), 2年生 (2020入学生), and 3年生 (2019入学生). Each column contains a line graph showing percentage trends and a table of scores for 46 items. The table includes headers for '全体' (Overall), '学年' (Year), '割合 (%)' (Ratio %), '差 (pt)' (Difference pt), and '割合 (%)' (Ratio %).

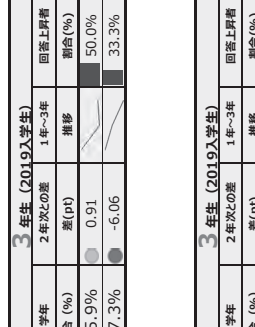
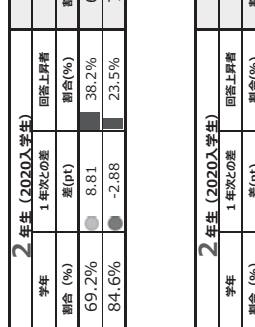
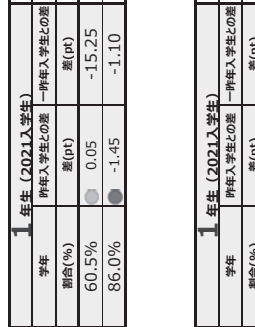
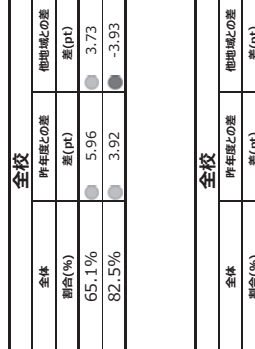
④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）

項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)
● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少	67.1%	1.03	69.8%	10.39	70.5%	11.14	61.4%	-8.64
主体性に興わる行動	78.6%	-1.30	81.4%	4.31	76.9%	-0.16	77.3%	-7.73
68 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	55.6%	3.35	58.1%	16.47	64.1%	22.44	45.5%	-9.55
71 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	68.3%	3.79	67.4%	11.19	66.7%	10.42	70.5%	5.45
協働性に興わる行動	69.0%	4.27	67.4%	9.11	69.2%	10.90	70.5%	7.12
69 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	67.5%	3.31	67.4%	13.28	64.1%	9.94	70.5%	3.79
70 友人以上の、意見やアドバイスを求められた	63.1%	7.43	69.8%	20.81	61.5%	12.58	58.0%	0.45
探究性に興わる行動	60.3%	4.24	68.8%	17.68	61.5%	9.46	65.9%	0.91
72 授業ではせうなるのかと疑問を持って、考えたり調べたりした	53.4%	10.63	69.8%	23.93	61.5%	15.71	50.0%	0.00
73 公式や仕組みを習った際、その根拠を自分で考えたり調べたりした	51.6%	1.45	60.5%	16.31	53.0%	12.71	48.7%	-3.13
社会性に興わる行動	46.8%	10.71	46.5%	39.63	48.7%	27.88	45.5%	-2.88
66 いま住んでいる地域の行事に参加した	61.9%	7.83	62.8%	15.26	53.8%	22.60	40.9%	4.24
67 地域社会などでボランティア活動に参加した		-14.20		-5.96		-1.06		
74 先生・保護者以外の地域の大人と、なにかい会話を行った								



⑤ 総合的な生徒の満足度

項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)
● 10pt以上の増加 ● 0-10ptの増加 ● 減少	82.5%	3.92	86.0%	-1.45	84.6%	-2.88	77.3%	-6.06
総合的な生徒の満足度	65.1%	5.96	60.5%	0.05	69.2%	8.81	65.9%	0.91
75 今の生活全般に対する満足度								
63 この学校に入ってよかったと思う								



補足・追加設問

項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	割合 (%)	差 (pt)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)	学年 割合 (%)
76 国際社会の問題解決に貢献したい	49.2%	9.21	60.5%	-6.20	61.5%	-5.13	56.8%	20.15
77 まだ世の中になく新しい技術やサービスを生み出してみたい	45.2%	-4.25	51.2%	-7.17	53.8%	-4.49	43.2%	-8.48
78 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる		8.76	39.5%	4.12	53.8%	18.43	43.2%	4.85

